

# 上灘地区地域福祉活動計画

～『支え合いと助け合いのあるやさしいまちづくり』をめざして～



上灘地区社会福祉協議会

# 目 次

はじめに	P1
I 策定にあたって	P2
II 上灘地区の現状と課題	
1 アンケートから見てきた住民意識および課題や問題点等	P7
2 アンケート調査の概要	P7
III 上灘地区 地域福祉活動計画	
1 活動目標	P9
2 重点活動目標	P9
3 上灘地区地域福祉活動計画	
(1) 子ども部門	P11
(2) 高齢者部門	P13
(3) 障がい者部門	P15
IV おわりに	P17
<b>資料</b>	P18
上灘地区 社会福祉に関するアンケート集計報告	
アンケート調査用紙	P19
アンケート集計報告	P22
アンケート設問の「その他」についての回答	P34
代表的項目についての回答	P36
上灘地区内の社会福祉に関連した施設・機関	P41

## はじめに

私たちは、住み慣れた地域で安心・安全に楽しく暮らし続けたいと願っています。しかし、私たちを取り巻く環境は大きく様変わりして、今までの感覚では解決できない問題が山積するようになりました。特に令和に入って直ぐに新型コロナウイルス感染症の流行という未曾有の災禍に見舞われ、住民・学校・職場等々が断絶しなければならなくなり、多くの地域課題が顕在化していきました。

そのような中で、今まで言われてきた、自助・共助・公助の連携・相互支援がいかに大切かが身をもって感じる事ができました。住民一人一人がお互いを大切に思い、人と人とのつながりを大切にし、地域の持つ力を強め、活かしながら、住民・地域・行政が協働しながら進めていくことが地域課題の解決のための手段であることが必要であると、痛感しました。今回の計画では、地域には多様な人たちがいて、つながり方もまた多様であるとして、地域住民が多様な参加・参画の機会を広げ、地域と関係機関・団体などの活動主体が、横のつながりや重なり合いを持ちながら継続的に連携していくことを目標としています。

地域住民、関係機関・団体が、この目標に向けて取り組むことにより、地域住民の複雑で複合的な課題の解決を支える包括的支援体制・重層的支援体制が構築され、地域共生社会の実現へとつながると確信しております。

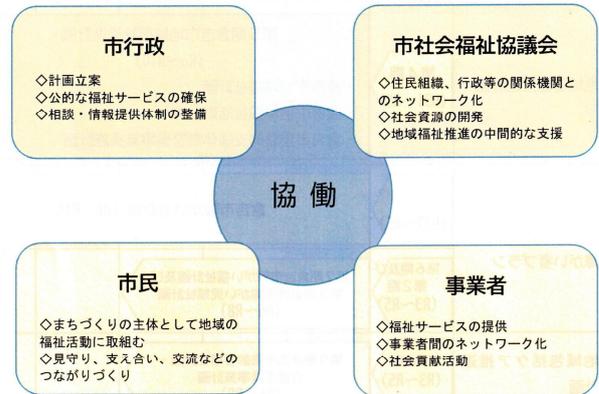
上灘地区の皆様が安心して暮らすことのできる地域づくりに向け、今後とも一層のご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。

最後に、本計画の策定に当たり、多大なご尽力をいただきました「上灘地区地域福祉活動計画策定委員会」の委員の皆様をはじめ、様々な機会に貴重なご意見をいただきました多くの皆様に厚くお礼を申し上げます

上灘地区社会福祉協議会長 黒川 泰

# I 上灘地区社会福祉計画の策定にあたって

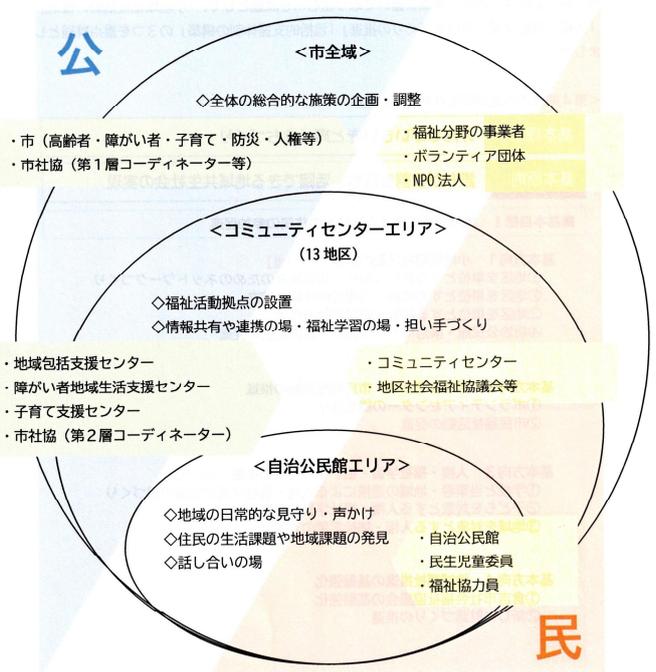
現在、少子高齢・人口減少等の社会構造の変化の中で、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、一人ひとりの暮らしと生きがいをともに創り高め合う「地域共生社会」の実現が求められています。こうした背景を踏まえ、平成30年4月に社会福祉法が改正され、それに伴って、法第107条に基づき策定する「地域福祉計画」と、法第109条に定める市社会福祉協議会が中心となり策定する



協働計画としての役割

「地域福祉活動計画」を一体化し、「倉吉市地域福祉推進計画」として策定されました。これは、行政の施策と社会福祉協議会の活動を整理して、「地域福祉推進計画」として一体的に策定されたものです。本計画は、「公」である行政と「民」である市民、事業者、社会福祉協議会が、理念や目標を共有し、それぞれに役割を持つとともに協働して取り組むとされています。

また、地域課題や生活課題が多くある中で、地域福祉を推進し、課題の解決に向けた取組を行っていくためには、自治公民館やコミュニティセンター、民生児童委員、地区社会福祉協議会などの組織を基盤とし、それぞれが連携し、重層的な取組が必要です。市民や地域の多様な主体が、「我が事」して受け止め、世代や分野を超えて「丸ごと」



生活圏域としての役割

つながり支え合う地域共生社会の実現を目指しています。この計画では、「自治公民館エリア」、「コミュニティセンターエリア」、「市全域エリア」の3つのエリア（3層構造）として設定し、それぞれの特性を生かし、福祉

事業のの展開をすすめていくことで、市民と関係機関が連携・協働して、課題解決に取り組んでいくこととしています。この中で、地域福祉に関する活動への住民の参加促進については、次のように記述されています。

- ・令和3年度に、地区公民館から「コミュニティセンター」となり、地域課題の解決に取り組む地域づくりの拠点施設となったことから、生活支援コーディネーターが、各地区コミュニティセンターなどと連携し、課題把握や、地域から出た課題に対する議論、必要な福祉サービスの検討などを図ることができました。
- ・また、地域においては「支え愛マップ」の作成やサロンを通じて、日頃から地域に暮らす人を知り、要支援者の情報共有などを行うことで、地域住民の福祉・防災に関する意識の醸成を図ることができました。
- ・地域住民が抱える課題が重度化・長期化することを防ぐ体制の構築が進む中、少子高齢化、地域におけるつながりの希薄化による孤独・孤立などが社会的な課題となっていることから、引き続き、取組を推進する必要があります。

これは、行政や市社会福祉協議会と連携しつつ、コミュニティセンターエリアでの課題把握や地域から出た課題に対する議論、さらには必要な福祉サービスの検討を図る事が必要になってきています。また、自治公民館エリアでは「支え愛マップ」の作成やサロンを通じて、日頃から、要支援者の情報共有し、福祉・防災に活かしていくこと必要となります。

上灘地区では、平成28年に「上灘地区地域福祉活動計画」を策定しました。これは倉吉市が平成24年に策定した「倉吉市地域福祉推進計画」と連動したものであり、令和6年3月に出された新しい「第5期倉吉市地域福祉推進計画」リンクしたものに作りかえなければならないという状況になってきました。また、令和3年度に地区公民館が「コミュニティセンター」となったのに伴い地域防災・地域福祉の役割も担うようになってきて、以前の福祉活動計画は現状に即さないという事が言われるようになってきました。

これを受けて、上灘地区においても地域住民みずからが自助・共助の福祉とはいかにあるべきか、また福祉の担い手となって創意工夫して地域の実態にあった福祉のあり方を作り上げていくために、この上灘地区の福祉計画を策定しました。策定にあたっては地区住民全員を対象としたアンケートを実施し、世帯数775世帯、調査人数1,154人からの回答を頂き、大まかな福祉に対する意識を把握する事ができました。この結果を受けて、子ども部門、高齢者部門、障がい者部門の3部門がそれぞれの課題を把握し、課題解決のための方策を話し合いながら、この福祉計画を策定していったものです。この計画は今後5年間に行うべき内容を含んでおり、地域住民を中心にして倉吉市・倉吉市社会福祉協議会と連携を深めながら活動していきます。

第5期倉吉市地域福祉推進計画

概要

計画期間 令和6年度～令和10年度（5年間）

基本理念 「未来へ！」つなげる福祉のまちづくり

基本原則 誰もが自分らしく生きることのできる共生のまちづくりの実現

計画の体系

■基本目標Ⅰ 連携・協働による相談支援の促進

基本項目1 包括的支援体制の推進

- ①多機関協働による包括的な相談支援体制の構築
- ②高齢・障がい及び子育て支援等の分野を越えたサービスの展開
- ③生活困窮者の自立支援
- ④地域・社会とのつながりづくりの支援
- ⑤アウトリーチによる支援の強化
- ⑥権利擁護の推進

重点

■基本目標Ⅱ 地域で支え合う体制づくりの促進

基本項目1 地域における福祉活動の推進

- ①地域における福祉活動拠点の充実
- ②地域における相談・福祉ニーズの把握の促進
- ③地域における福祉・防災活動の促進

重点

基本項目2 市民福祉活動の推進

- ①ボランティア活動の推進
- ②市民の社会参加の促進

基本項目3 地域の担い手づくりの推進

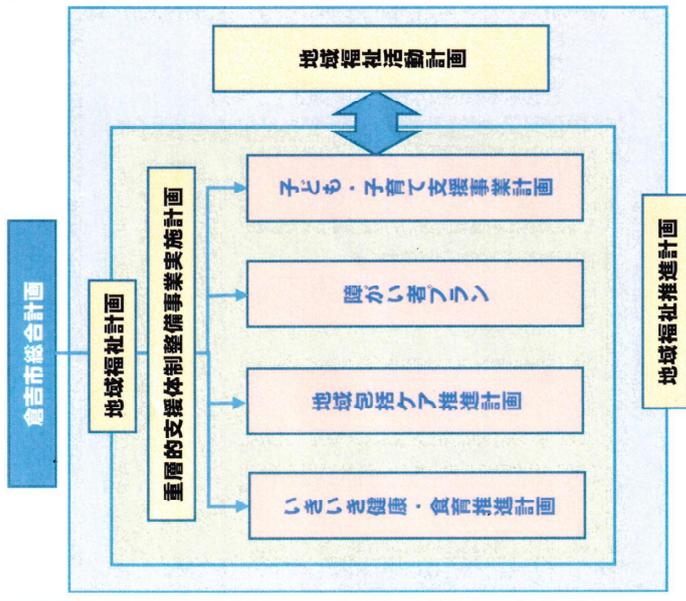
- ①福祉の人材の育成
- ②入権・福祉学習の充実

■基本目標Ⅲ 地域福祉の推進に向けた基盤強化

基本項目1 地域福祉推進の基盤強化

- ①倉吉市社会福祉協議会の基盤の整備・強化
- ②地域における公益的な取組みの推進
- ③情報提供体制の充実

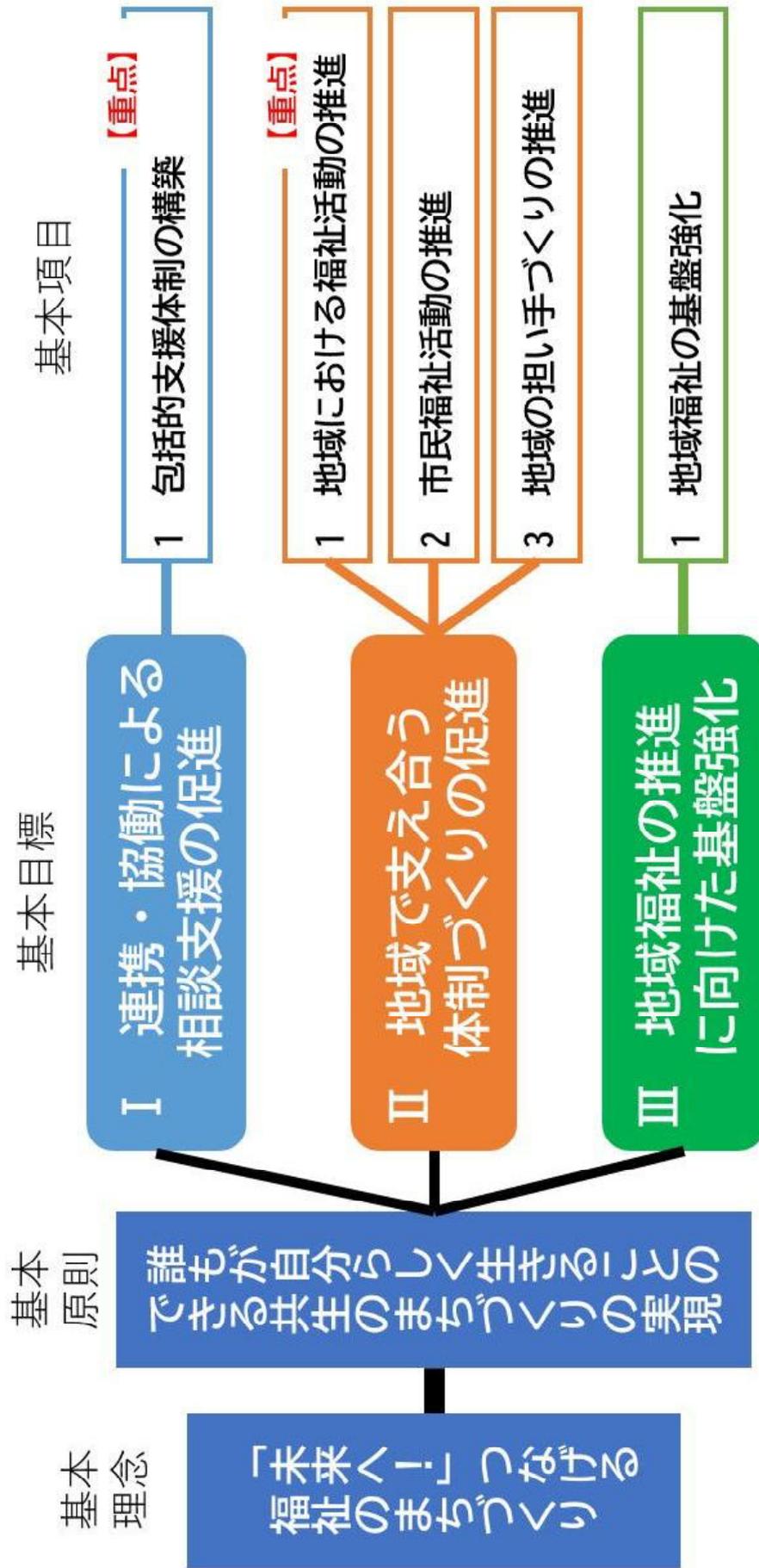
計画の位置づけ



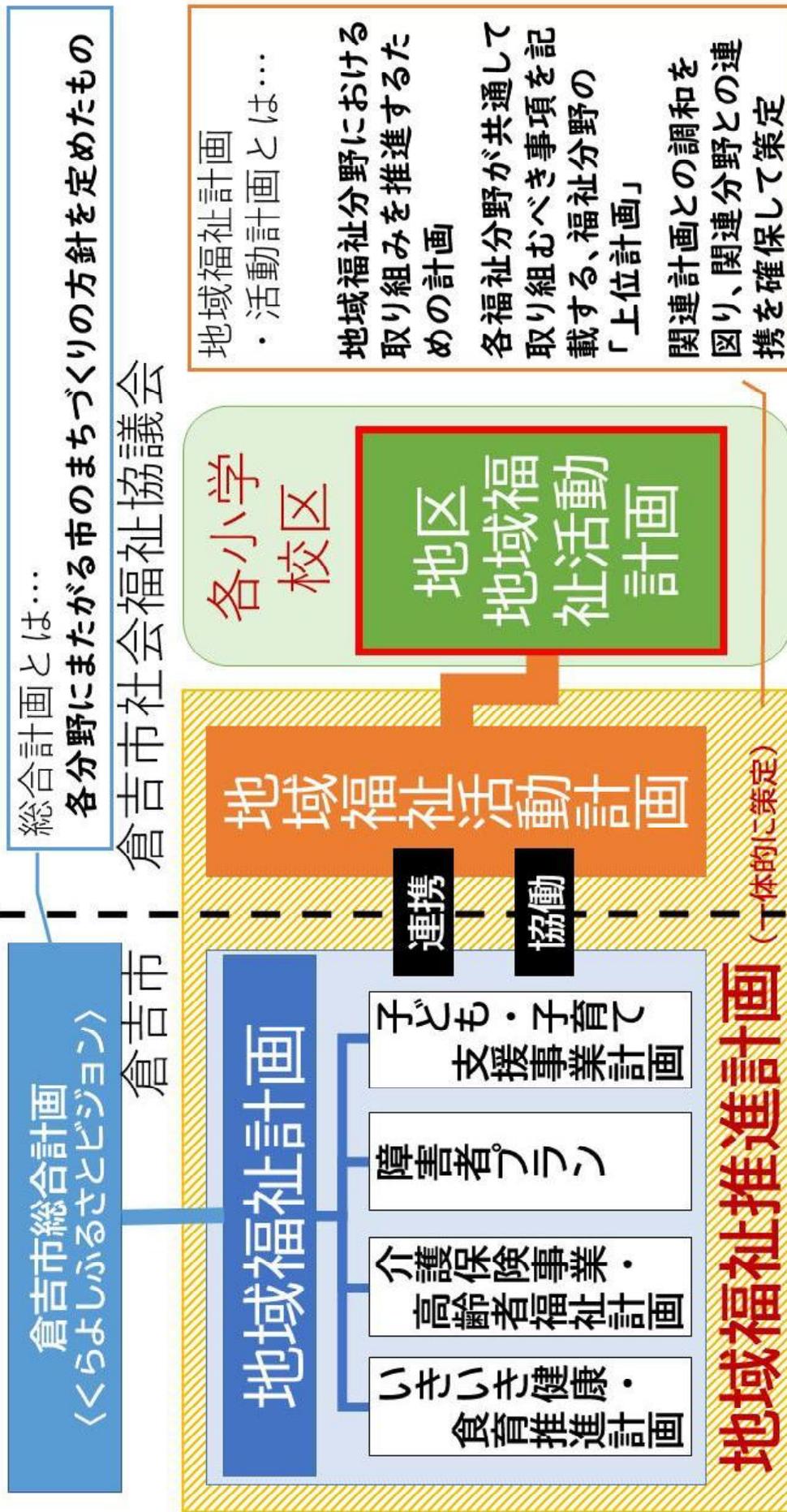
第5期計画の特徴

「包括的支援体制の推進」「地域における福祉活動の推進」を重点項目とし、その取組を横断的・効果的に実行するため、「重層的支援体制整備事業実施計画」を本計画に内包します。

# 倉吉市地域福祉推進計画の内容



## 2(2) 地域福祉推進計画と地区地域福祉活動計画の関係



## II 上灘地区の現状と課題

### 1 アンケートから見てきた住民意識および課題や問題点等

上灘地区地域福祉活動計画を策定するにあたって、地区住民の皆様へ意識調査アンケートを実施しました。これは自治公民館を通じて全公民館加入世帯へ配布して回答を得たものです。自治公民館加入率自体が60%を下回っている中での回答率ですので、地域の大まかな意識を把握する事ができたと考えています。集計結果は資料として添付しています。

回答世帯数	775世帯	全世帯数	2,532世帯
調査人数	1,154人	人口総数	5,226人
男性(内数)	500人		
女性(内数)	645人		
性別不明(内数)	9人		
		自治公民館加入率	59.7%

回答率	世帯	30.6%
	調査人数	22.1%

### 2 アンケート調査の概要

- (1) 普段から健康や介護予防のために気を付けていることや、活動していることはありますか？

「町内や地区のサロン活動に参加している」、「健康維持や介護予防のための講演会や健康教室などに参加している」が少ない。

→ これからは、地域でのつながりとなる「となり近所や友人とのつきあいをしている」が重要と考えられます。

- (2) 高齢者が安心して暮らすために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？
- ① 高齢化の中で免許返納後や介護が必要になった時を考えて「送迎や買い物代行などの生活支援」を答えた人も多かった。地域全体として将来を見据えた取組を考えていく必要があります。
- ② 「高齢者の見守り活動の充実」を答えた人も多かった。新たな見守り活動を検討する必要があるのではないかと考えます。令和5年より地区サロンと地区相談会を月1回開催していますが、さらにサロンや相談会を拡充していく事が必要と考えられます。
- (3) 上灘地区に愛着や誇りを持っていますか？

「はい」「どちらかと言えばはい」を合わせると全体の71.6%となり多くの住民が、自分の住む上灘地区に愛着と誇りを持っている事が分かります。「どちらかといえばいいえ」「いいえ」を合わせてもこちらは9.0%で、少数でした。

- (4) 子育て支援のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？
- ①「子どもの遊び場・公園の整備」が最も多い回答でした。地域に子どもの遊び場が少ないと思っている人が多い事が分かります。
  - ②「子育て家庭に対する経済的支援の推進」も高い回答割合でした。物価高騰により、子育て世帯が家計を圧迫された事が要因の一つと考えられます。
  - ③共働き世帯が増えた事もあり、「保育所・こども園・幼稚園の充実」、「学童保育（放課後児童クラブ）の充実」は共に10%を超えています。
- (5) 上灘地区は、福祉サービス、バリアフリー、住民意識などを総合的に考えて住みやすいまちであると思いますか？
- 「住みやすいと思う」と「どちらかと言えば住みやすいと思う」を合わせると全体の約6割となります。多くの方が住みやすいと感じていると考えられます。
- (6) 福祉サービスをより充実させていくために、特に重要と考える取り組みは何ですか？
- ①最も割合が高いのは「困ったことの相談体制や福祉サービス」でした。身近な家族へ相談できない高齢者などが増えたこと、コロナ禍により近所づきあいなど地域のつながりが希薄化した事で困りごとの相談先や相談体制を充実してほしいと考える人が多くなってきている。
  - ②「手当や医療費の助成などの経済的な支援」「ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス」「介助者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ」など、経済的な支援と介護保険サービスの更なる充実を望む声も多い。
- (7) 今後、障がいのある人とない人が互いに理解を深め、交流を図り、誰もが支え合う地域をつくっていくことを目指す地域共生社会を実現するためにどのようなことが大切だと思いますか？
- ①「子どもの頃からの交流機会の確保」が最も高い割合です。地域の中で世代を問わず障がいについて考える機会を設ける事も必要かも知れません。
  - ②「ボランティア活動の促進」が8.1%で低い割合です。ふれあい給食サービスなど地域のボランティア活動にもつながるため、大切な取組です。
- (8) 地域の福祉をより充実させるためには、住民にとってどんなことが必要だと思いますか？
- ①「住民が気軽に悩みごとを相談できる場所があること」が最も高い割合です。地域の中で気軽に相談できる場が必要になっている事が分かります。
  - ②「住民が地域に暮らす様々な立場の人の課題に気づくこと」「住民同士が支え合い、助け合う活動を活発にすること」「子どもから高齢者までのすべての世代の住民が集まって交流する機会を増やすこと」の順で割合が高くなっています。
  - ③「住民が集まって話し合う機会を増やすこと」「住民が福祉に関心を持ち、福祉の必要性について学ぶこと」は低い割合となっています。住民は「話合う事」や「学ぶ事」よりも具体的な地域での「活動」の方を重視している事が分かります。

### Ⅲ 上灘地区 地域福祉活動計画

上灘地区社会福祉協議会では、倉吉市社会福祉協議会からご支援を頂きながら、多くの住民の皆様のご協力とご尽力によりまして、令和7年度から令和11年度の5カ年を計画期間とする「上灘地区地域福祉活動計画」を策定しました。

策定に当たりましては、住民の皆さんの福祉への思いや住民アンケート等を吟味しながら計画の策定作業を進めてきました。今回の計画は「より具体的な活動計画を策定していこう」との事を意識して策定作業を進めてきました。自治公民館、コミュニティセンター、各種団体がそれぞれの責任分野で連携をとりながら進めていけたらと願ってこの計画を策定しました。皆んなで力を合わせて、上灘地区の福祉の向上を図り、住みやすい幸せな地域を作り上げていきましょう。

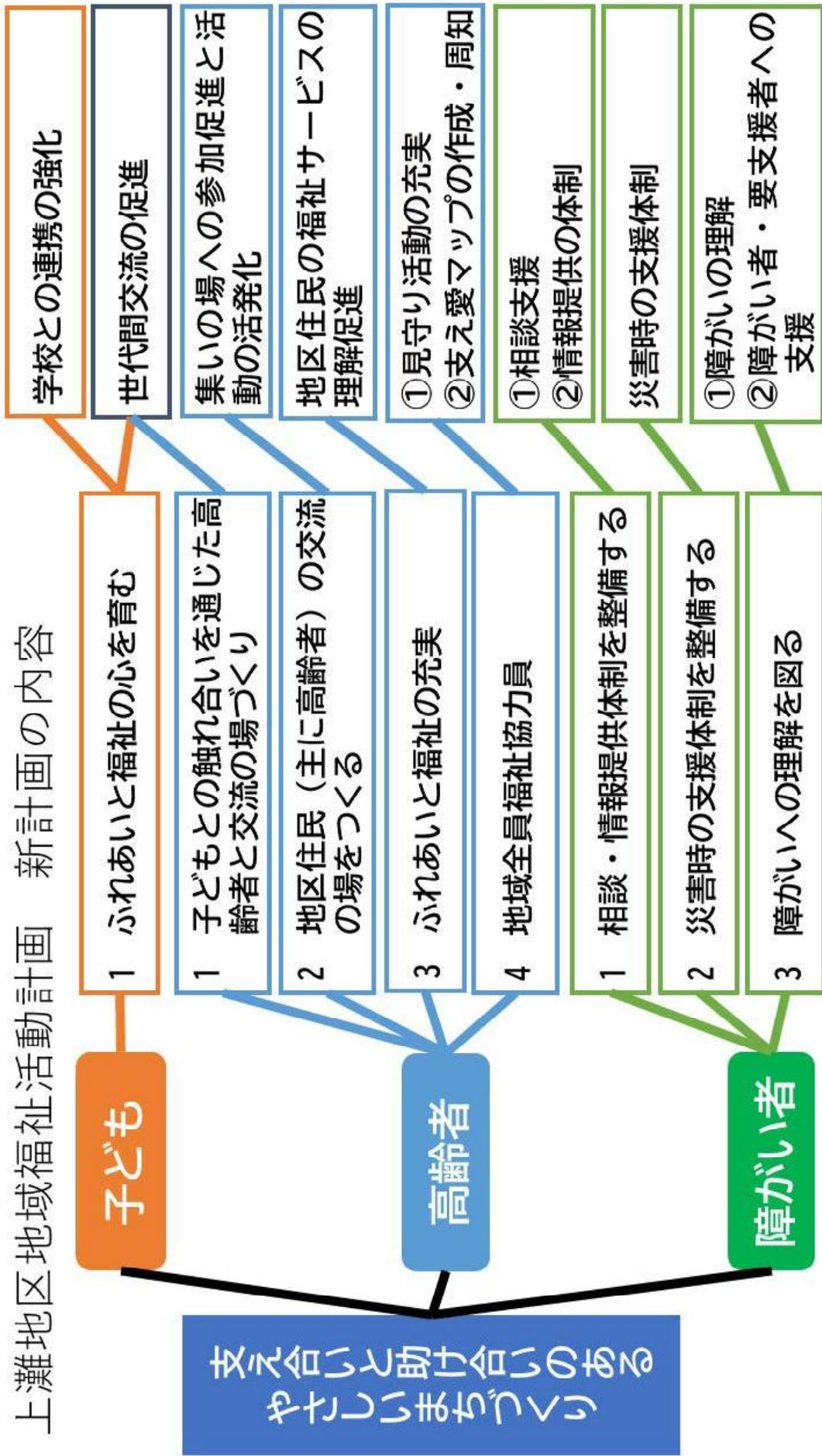
#### 1 活動目標

### 『支えあいと助け合いのあるやさしいまちづくり』

#### 2 重点活動目標

- (1) 高齢化社会に対応した施策の推進
- (2) 地域で安心して暮らせる支え合い活動の推進
- (3) 住民の健康づくりの推進
- (4) ボランティアの育成とボランティア活動の推進
- (5) 災害時・緊急時における要支援者への対応施策の推進

# 上灘地区地域福祉活動計画 新計画の内容



### 3 上灘地区地域福祉活動計画

#### (1) 子ども部門

①

<b>基本目標</b>	ふれあいと福祉の心を育む
<b>推進項目</b>	学校との連携の強化
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以降、学校との交流事業がなくなったため、子どもたちと地域住民のかかわりが少なくなった。</li> <li>・地域との交流が減少することで、子どもたちの地域に対する愛着が低下するおそれがある。</li> </ul>
<b>内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回、子どもたちと地域住民が自由に楽しく語り合う場を設ける。子どもたちは地域で活躍する大人の多様な価値観を知り、地域に対する関心を高める。一方、大人たちは子どもたちの考えを知り、地域全体で子どもを見守っていく大切さを改めて考える機会となる。</li> </ul>
<b>関連する事業等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校2年生（3年生）と地域住民とのトークフォークダンス（年1回）</li> </ul>
<b>連携する関係機関等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育振興会</li> <li>・民生児童委員</li> </ul>
<b>計画</b>	～ 令和9 年度まで

②

<b>基本目標</b>	ふれあいと福祉の心を育む
<b>推進項目</b>	学校との連携の強化
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との交流はあるが、中学、高校と学年が上がるにつれて、子どもたちと地域住民との交流の機会が減少していく。特に学校の教職員と地域住民との交流の機会がほとんどなく、学校と連携して地域の子どもたちを育てていく機運の高まりが期待できない。</li> </ul>
<b>内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教職員と地域住民が自由に語り合う機会を設ける。話し合いの中で、地域の子どもたちの現状を共有し、ともに連携して地域で子どもたちを見守っていく機運を高める。</li> </ul>
<b>関連する事業等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教職員と地域住民の話し合いの場（年1回）</li> </ul>
<b>連携する関係機関等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育振興会</li> <li>・民生児童委員</li> </ul>
<b>計画</b>	～ 令和9 年度まで

③

<b>基本目標</b>	ふれあいと福祉の心を育む
<b>推進項目</b>	世代間交流の促進
<b>住民意識及び 課題・問題点</b>	・コロナ禍以降、子どもたちと高齢者の交流機会がなくなってしまった。高齢者との交流は、子どもたちの福祉の心を育み、地域への愛着を高める重要な活動であるため、早期の交流再開が必要である。
<b>内容</b>	・子どもたちと高齢者が集い、昔遊びを通じて楽しく語りふれ合える場を設ける。子どもたちは高齢者から昔遊びを教わることで高齢者を敬う心を育み、高齢者は子どもに持っている知識・技能を伝えることで新しい役割と生きがいを見つけることができる。
<b>関連する事業等</b>	・昔遊び交流会（年1回）
<b>連携する関係機関等</b>	・地区社会福祉協議会 ・民生児童委員
<b>計画</b>	～ 11年度まで

(2) 高齢者部門

①

<b>基本目標</b>	子どもとの触れ合いを通じた高齢者と交流の場づくり
<b>推進項目</b>	世代間交流の促進
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	・コロナ禍以降、子どもとの交流の場がなくなったため、世代間の交流や地域とのかかわりが減少してしまった
<b>内容</b>	子どもと地区住民（主に高齢者）との交流会 ・もちつき交流会（年1回） ・昔あそび（年1回）
<b>関連する事業等</b>	・もちつき交流会 ・昔あそび
<b>連携する関係機関等</b>	上灘老人クラブ協議会、民生児童委員、自治公民館協議会、上灘コミュニティセンター、上灘小学校・PTA
<b>計画</b>	～ 令和11年度まで

②

<b>基本目標</b>	地区住民（主に高齢者）の交流の場をつくる
<b>推進項目</b>	集いの場への参加促進と活動の活性化
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	・町内サロンが活動しているのか分からないため参加しづらい ・サロンの問い合わせ先が分からない ・地区サロンがいつ開催されるのか分からない
<b>内容</b>	コミセンだより・防災放送でサロン開催の周知を図る ・コミセンだよりの空きスペースを利用した、町内サロンの紹介、地区サロンの開催告知（町内サロン・・・2・3か月に1回地区サロン月1回） ・防災放送を利用した地区サロンの開催告知（開催当日） 各自治公だよりにて町内サロンの紹介
<b>関連する事業等</b>	・町内サロン ・地区サロン
<b>連携する関係機関等</b>	市社協、地区社協、各自治公民館 上灘コミュニティセンター
<b>計画</b>	～ 令和11年度まで

③

<b>基本目標</b>	ふれあいと福祉の充実
<b>推進項目</b>	地区住民の福祉サービスの理解促進
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような福祉サービスが受けられるのか分からない、またどこに問い合わせればよいのか分からない</li> <li>・当事者のみならず、親が当事者世代（30～50代）の福祉サービス理解が進んでいない</li> </ul>
<b>内容</b>	<p>介護保険サービス事業の周知・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設や事業所の利用についての情報共有の場を提供する（町内学習会、老人クラブ研修会）</li> <li>・上灘地区の包括・福祉事業所一覧マップの作成（事業所マップ・利用できる内容を含む各事業所紹介、こんな時はどこへ？連絡先一覧）</li> <li>・ふれあい給食サービス事業実施日をコミュニティセンターだよりにて告知（日時、空き情報の掲載（月1回））</li> </ul>
<b>関連する事業等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉研修会</li> <li>・町内学習会（1～2年に1回程度、親が当事者世帯対象）</li> <li>・老人クラブ研修会（1～2年に1回程度、当事者対象）</li> <li>・ふれあい給食サービス事業</li> </ul>
<b>連携する関係機関等</b>	倉吉市社会福祉協議会、上灘地区社会福祉協議会、包括支援センター、民生児童委員、給食ボランティア、上灘老人クラブ協議会、自治公民館協議会、上灘コミュニティセンター
<b>計画</b>	～ 令和11年度まで

④

<b>基本目標</b>	地域全員福祉協力員
<b>推進項目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り活動の充実</li> <li>・支え愛マップの作成・周知</li> </ul>
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉協力員の負担が大きい（実施時間・頼まれごとなど）</li> </ul>
<b>内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民みんなで声掛け・見守りを意識する</li> <li>・支え愛マップの作成・更新による情報共有</li> </ul>
<b>関連する事業等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支え愛マップ作成（各町にて作成、2～3年での更新）</li> </ul>
<b>連携する関係機関等</b>	倉吉市社会福祉協議会、上灘地区社会福祉協議会、民生児童委員、福祉協力員、自治公民館協議会
<b>計画</b>	～ 令和11年度まで

(3) 障がい者部門

①

<b>基本目標</b>	相談・情報提供体制を整備する。
<b>推進項目</b>	① 相談体制 ② 情報提供の体制
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	独り暮らし・高齢者の増加、家族機能の低下ね地域とのつながりの希薄化などにより、身近な相談窓口や情報提供体制の整備が必要とされている。
<b>内容</b>	既にある相談体制につなげるもっと身近な具体的な方法や体制を作る。 ○ 各自治公民館の班や組単位での相談体制づくり ・ 班の総務・班長が所属する住民の状況を把握する。 ・ 住民から要保護の有無の情報収集をする。 （独居、高齢者、障がい者、乳幼児等） ・ 名簿づくりをする。名簿の管理は役員・総務とする。
<b>関連する事業等</b>	各町の「支え愛マップ」作成
<b>連携する関係機関等</b>	・ 各町自治公民館 ・ 社会福祉協議会 ・ 包括支援センター ・ 各町内の民生児童委員・福祉協力委員
<b>計画</b>	～ 令和9年度まで（可能であれば令和7年度中）

②

<b>基本目標</b>	災害時の支援体制を整備する。
<b>推進項目</b>	災害時の支援体制
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	① 各町の避難場所を知らない。 ② 要支援者の避難場所を確保する。 ③ 避難場所への移動ができない。 ④ 避難場所での居住スペース、居住条件が整わない。
<b>内容</b>	① 各町の避難場所・移動方法を周知する。 各町の自主防災会「防災マップ」を作成し、各戸へ配布する。 ② 要支援者の移動方法を作成し、関係者が熟知する。 （車イス、非常用リヤカー等の整備） ③ 避難スペース、非常用トイレの整備
<b>関連する事業等</b>	各町の「支え愛マップ」作成
<b>連携する関係機関等</b>	・ 各町自治公民館防災会 ・ 社会福祉協議会 ・ 各町内の民生児童委員・福祉協力委員
<b>計画</b>	～ 令和9年度まで（可能なものは令和7年度から）

③

<b>基本目標</b>	障がいへの理解を図る。
<b>推進項目</b>	① 障がいの理解 ② 障がい者・要支援者への支援
<b>住民意識及び課題・問題点</b>	○ 住民の障がいへの理解が不十分である。 ○ 障がい者の社会参加が不十分である。 ○ 社会生活を営む上での施設等が未整備である。
<b>内容</b>	○ 障がいへの理解を深める。 研修会の開催、広報 ○ 障がい者とのふれあい活動 スポーツ活動 文化活動 日常生活の活動
<b>関連する事業等</b>	各町の「支え愛マップ」作成
<b>連携する関係機関等</b>	・各町自治公民館 ・地区振興協議会 教育普及部等 ・地区人権教育研究会 ・社会福祉協議会
<b>計画</b>	～ 令和9年度まで (可能なものは令和7年度から)

## IV おわりに

「上灘地区地域福祉活動計画」を完成させる事ができました。活動目標を『支え合いと助け合いのあるやさしいまちづくり』として上灘地区に住んでいる人たちが、お互いに尊重され助け合って幸せな生活を送れる事を信じて、自分たちが貢献できる事が何があるかを考えて頂き、行動できる地域づくりを進めていきたいと考えております。各事業については、毎年評価し改善していきたいと思っております。

策定にあたりましては、多大なるご支援を頂きました倉吉市社会福祉協議会の皆様、鳥取短期大学 准教授 青木 淳英 様には適切なご指導・ご助言を賜りました。さらに策定委員の皆様には多くのご提案を頂きました。関係されました方々に深くお礼申し上げます。本当に有り難うございました。

令和7年3月策定

上灘地区社会福祉協議会長 黒川 泰

### 策定委員会メンバー

#### 各専門員会

#### 【高齢者部門】

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| ・地区社協会長         | 黒川泰        |
| ・自治公民館協議会長      | 山口喜代美      |
| ・老人クラブ協議会長      | 前田紀一       |
| ・民生児童委員協議会長     | 藤原孝治       |
| ・ふれあい・いきいきサロン代表 | 松尾和世       |
| ・福祉協力員代表        | 入江美知子、興治 麗 |

#### 【子ども部門】

- |               |       |
|---------------|-------|
| ・地区社協会長       | 黒川泰   |
| ・民生児童委員協議会長   | 藤原孝治  |
| ・青少年育成協議会長    | 山口大助  |
| ・教育振興会会長      | 福井伸一郎 |
| ・主任児童委員       | 河本睦美  |
| ・コミュニティセンター館長 | 船越芳昭  |

#### 【障がい部門（要支援者）】

- |            |       |
|------------|-------|
| ・地区振興協議会長  | 山口喜代美 |
| ・自治公民館協議会長 | 山口喜代美 |
| ・地区社協会長    | 黒川泰   |

# 資 料

## 福祉に関するアンケート調査

問①あなたの性別は？

- 1、男性
- 2、女性

問②あなたの年代は？

- 1、10代以下
- 2、20代
- 3、30代
- 4、40代
- 5、50代
- 6、60代
- 7、70代
- 8、80代以上

### 【高齢者に関すること】

問③普段から健康や介護予防のために気を付けていることや、活動していることはありますか？

- 1、町内や地区のサロン活動に参加している
- 2、運動をしている（ウォーキング等）
- 3、健康維持や介護予防のための講演会や健康教室などに参加している
- 4、食事に気を付け、規則正しい生活を送っている
- 5、趣味活動に取り組んでいる
- 6、となり近所や友人とのつきあいをしている
- 7、特にしていない

問④高齢者が安心して暮らすために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？

- 1、高齢者の見守り活動の充実
- 2、介護予防教室やサロンなどの集いの場の開催
- 3、送迎や買い物代行などの生活支援
- 4、高齢者の就労機会の提供
- 5、安全な道路づくりや環境づくり
- 6、介護保険サービスや福祉施設の充実
- 7、高齢者への理解と助け合いの心を育む教育
- 8、総合相談・情報提供体制の整備
- 9、その他

### 【子育てに関すること】

問⑤上灘地区に愛着や誇りを持っていますか？

- 1、はい
- 2、どちらかと言えばはい
- 3、どちらかと言えばいいえ
- 4、いいえ
- 5、どちらとも言えない

問⑥子育て支援のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？

- 1、保育所・こども園・幼稚園の充実
- 2、子育てに関する相談・学習・交流の場の充実
- 3、学童保育（放課後児童クラブ）の充実
- 4、子育て関係団体・ボランティアのネットワーク化
- 5、子育て家庭に対する経済的支援の推進
- 6、児童虐待予防・対策の推進
- 7、乳幼児健診・健康相談・健康教育の充実
- 8、子どもの遊び場・公園の整備
- 9、その他

【障がいに関すること】

問⑦上灘地区は、福祉サービス、バリアフリー、住民意識などを総合的に考えて住みやすいまちであると思いますか？

※バリアフリー・・・障がいのある人や高齢者が生活の中で困ることがないように、設備や環境を整えたり、道具を使ったりして「バリア」（じゃまになるもの）を取り除くこと

- 1、住みやすいと思う
- 2、どちらかと言えば住みやすいと思う
- 3、どちらかと言えば住みやすいと思わない
- 4、住みやすいと思わない
- 5、どちらとも言えない

問⑧福祉サービスをより充実させていくために、特に重要と考える取り組みは何ですか？

- 1、困ったことの相談体制や福祉サービス
- 2、健康づくりや地域での医療サービス
- 3、手当や医療費の助成などの経済的な支援
- 4、成年後見制度など、金銭・財産などの管理の支援
- 5、ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス
- 6、ガイドヘルパー・コミュニケーション支援など社会参加の支援
- 7、介助者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ
- 8、日中の活動場所（作業所などの障がい者施設）の整備
- 9、企業などで働くための支援（就労支援）

- 10、仕事以外の趣味や余暇活動・スポーツ活動などの支援や場所の整備
- 11、グループホームなど、地域における住まいの場の整備
- 12、障がいについての理解の促進や差別の解消
- 13、公共施設や道路、交通機関などのバリアフリー
- 14、障がいに応じた多様な情報提供の充実
- 15、災害時の支援体制の整備
- 16、その他

問⑨今後、障がいのある人とない人が互いに理解を深め、交流を図り、誰もが支え合う地域をつくっていくことを目指す地域共生社会を実現するためにどのようなことが大切だと思いますか？

- 1、子どもの頃からの交流機会の確保
- 2、障がいの有無に関わらず参加できる行事・イベントの開催
- 3、学校における特別支援教育の推進
- 4、障がい者の一般就労の推進
- 5、ボランティア活動の促進
- 6、障がいを理解するための広報・啓発活動
- 7、その他

**【地域福祉に関すること】**

問⑩地域の福祉をより充実させるためには、住民にとってどんなことが必要だと思いますか？

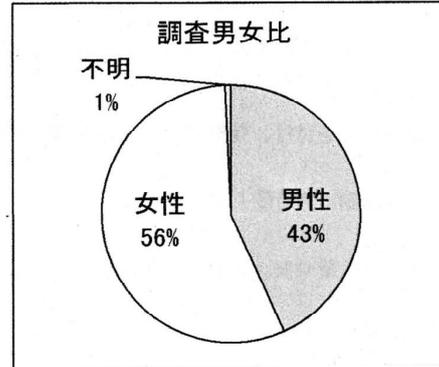
- 1、住民が集まって話し合う機会を増やすこと
- 2、子どもから高齢者までのすべての世代の住民が集まって交流する機会を増やすこと
- 3、住民同士が支え合い、助け合う活動を活発にすること
- 4、住民が地域に暮らす様々な立場の人の課題に気づくこと
- 5、住民が気軽に悩みごとを相談できる場所があること
- 6、住民が福祉に関心を持ち、福祉の必要性について学ぶこと
- 7、その他

## 上灘地区 社会福祉に関するアンケート集計報告

### 1、問①あなたの性別は？

調査世帯数	775 世帯
-------	--------

調査人数		1,154 人
(内訳)	男性	500 人
	女性	645 人
	性別不明	9 人



#### ※参考資料

世帯数
2,532 戸

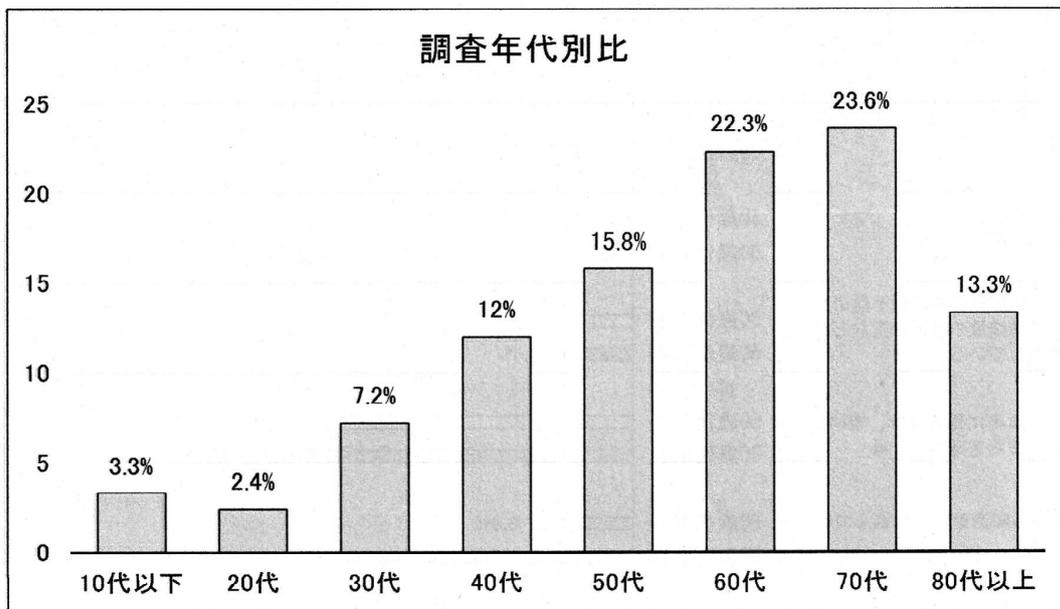
人口総数	男性	女性
5,226 人	2,421 人	2,805 人

(令和 5 年 12 月末現在)

自治公民館加入率
59.7%

(令和 5 年 10 月末現在)

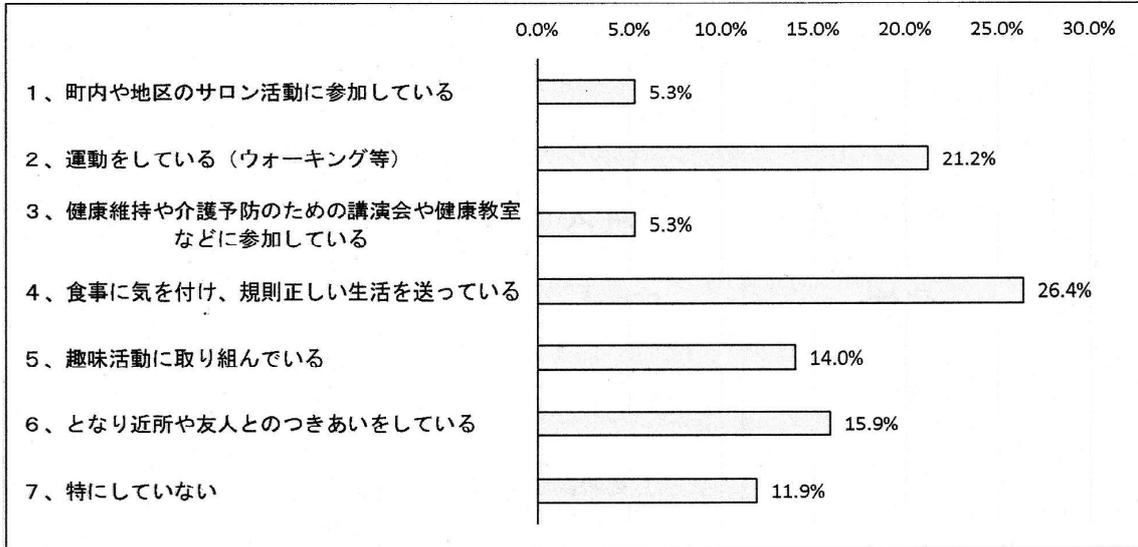
### 2、問②あなたの年代は？



年代が若いほど回答率が低い傾向が見られます。特に 20 代は 10 代以下よりも関心が低いことが分かります。

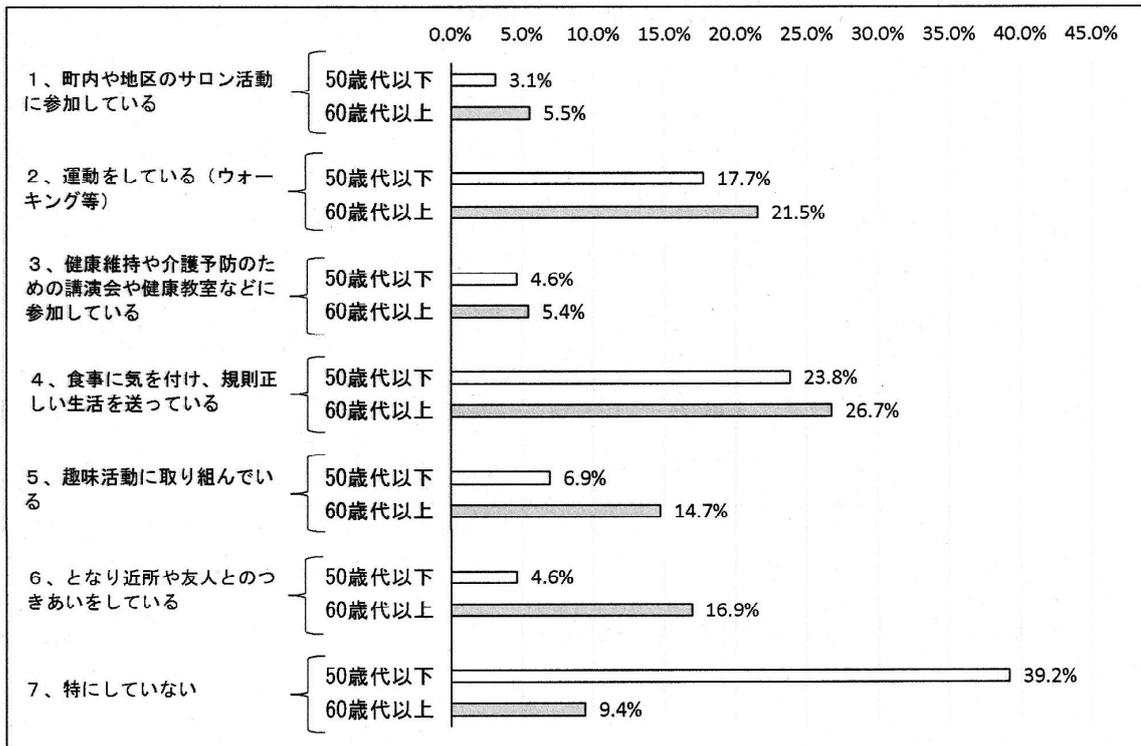
3、問③普段から健康や介護予防のために気を付けていることや、活動していることはありますか？

【全世代・全町】



回答の多い「④食事に気を付け、規則正しい生活を送っている」、「②運動をしている」、「⑤趣味活動に取り組んでいる」は個人の取り組みです。地域での取り組みである「①町内や地区のサロン活動に参加している」、「③健康維持や介護予防のための講演会や健康教室などに参加している」が少ないことが分かります。これからは、地域でのつながりとなる「⑥とんだり近所や友人とのつきあいをしている」が重要と考えられます。また、「⑦特にしていない」人を①や③へつなげることも必要と考えられます。

【全町 50歳代以下・60歳代以上別】

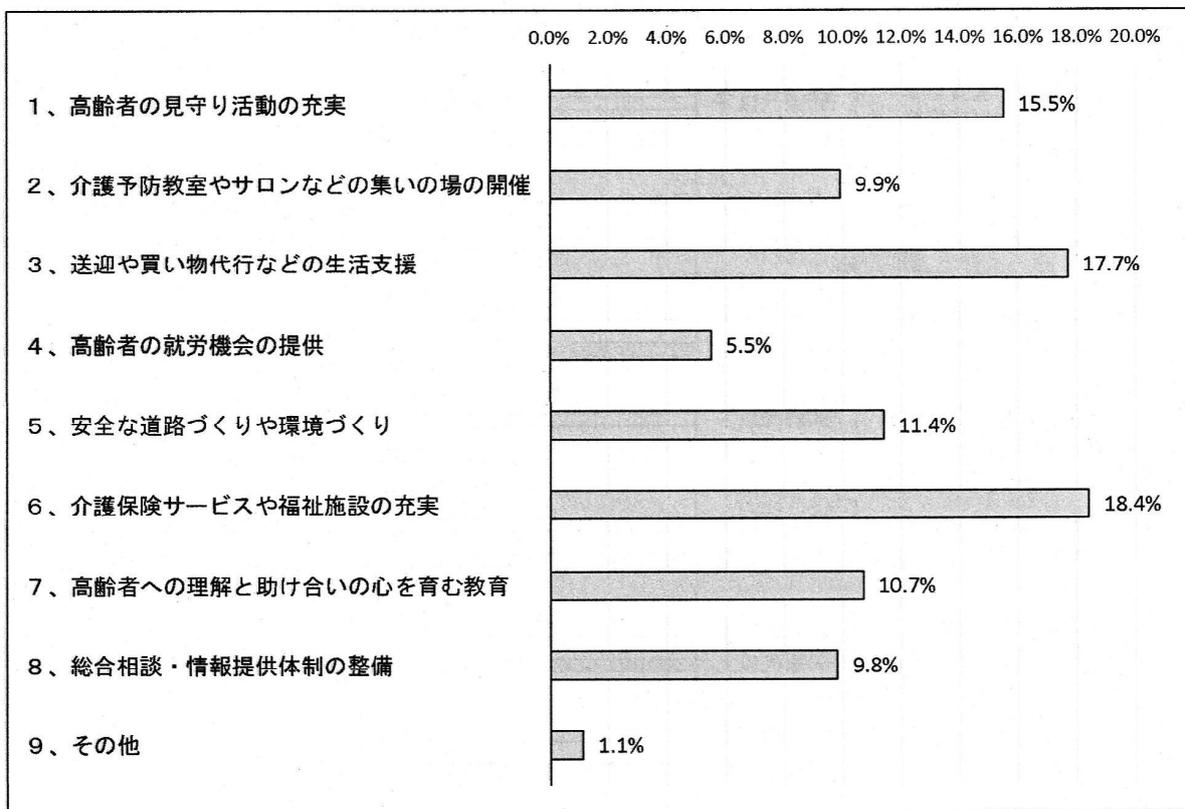


50歳代以下は、「⑥となり近所や友人とのつきあい」が60歳代以上と比べると4倍近く割合が少ないことが分かります。若い世代の地域でのつながりを増やすことが必要と考えられます。また、「⑦特にしていない」の割合が4割近くに上ります。

60歳代以上は、全世代と比べると「⑦特にしていない」人の割合がさらに低いことが分かります。全体的に見ると、全世代と同じような傾向になっています。

4、高齢者が安心して暮らすために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？

【全世代・全町】



「⑥介護保険サービスや福祉施設の充実」が最も多いですが、これは行政や事業者への働きかけが必要となり、住民だけでの解決は困難と思われます。

高齢化の中で免許返納後や介護が必要になった時を考えて、「③送迎や買い物代行などの生活支援」を答えた人も多かったです。上灘地区は病院や店舗も多く、交通の便も比較的良いですが、小鴨川北エリアなど店舗が少なく交通の便が悪い所もあるため、地域全体として将来を見据えた取り組みを考える必要があると思います。

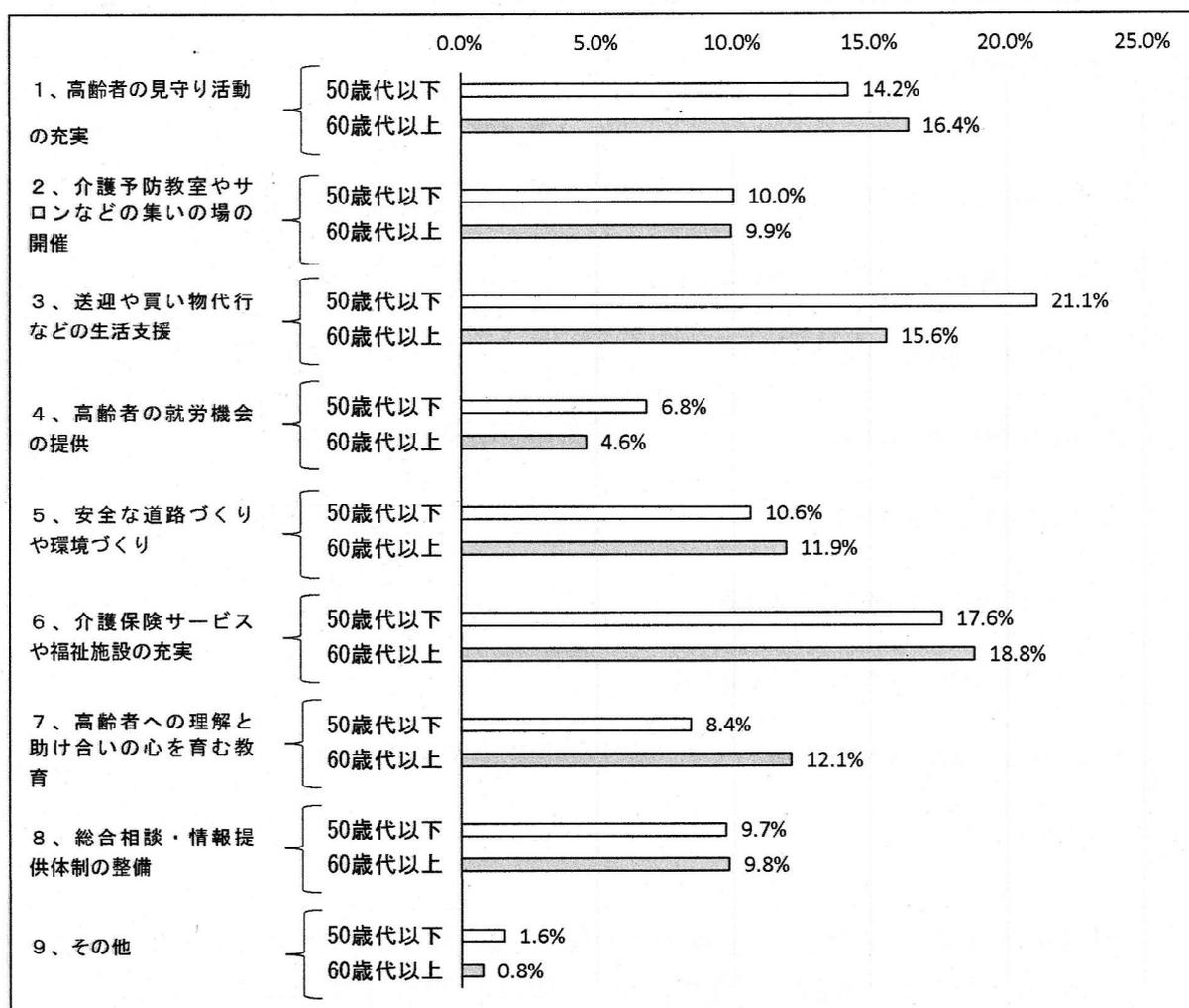
「①高齢者の見守り活動の充実」を答えた人も多いです。地域には、自治公民館長、民生児童委員、福祉協力員、ふれあい給食サービス、サロンなど様々な見守りの活動があります。しかし、自治公民館加入率が年々低下し、さらに一人暮らし高齢者世帯が増加している中で、新たな見守り活動を検討していくことが必要と考えられます。

令和5年より地区サロンと地区相談会を月1回開催していますが、「②介護予防教

室やサロンなどの集いの場の開催」と「⑧総合相談・情報提供体制の整備」が必要と考える人がいるため、サロンや相談会を拡充していくことが必要と考えられます。例えば、これまでコミュニティセンターで開催していた地区サロンや地区相談会を、自治公民館を回って開催する移動方式にすることも一つの方法と言えます。

「⑦高齢者への理解と助け合いの心を育む教育」については、学校での福祉教育も大切ですが、地域での世代間交流事業を増やすことで高齢者への理解と助け合いの心が育まれると思います。

【全町 50 歳代以下・60 歳代以上別】

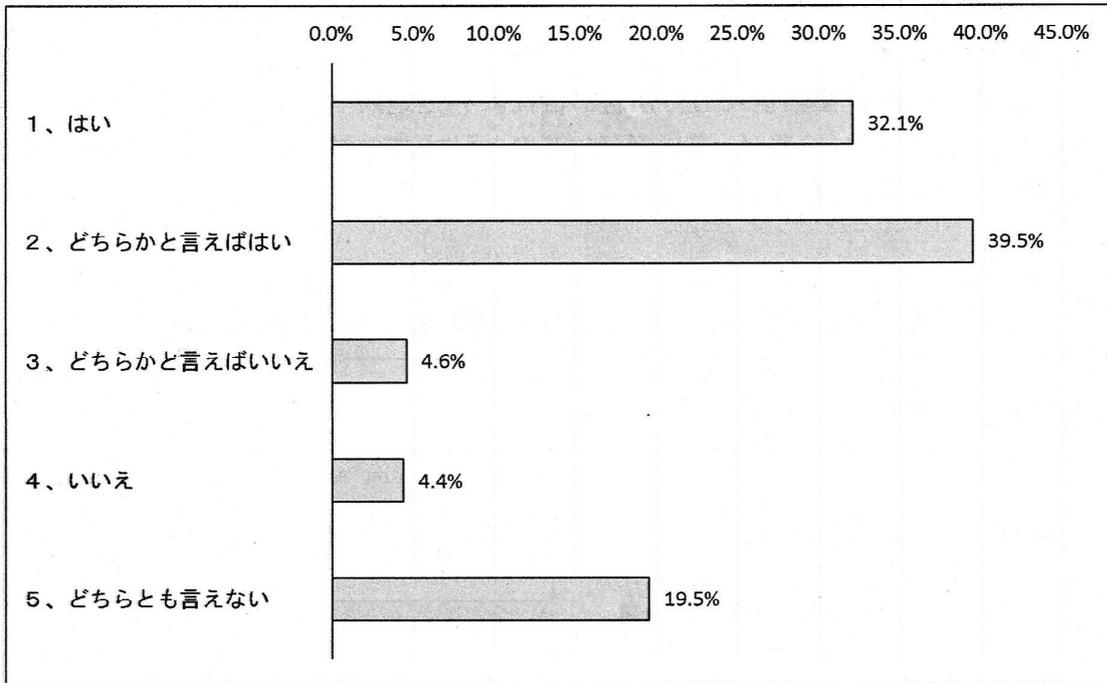


「③送迎や買い物代行などの生活支援」については、60歳代以上よりも50歳代以下の若い世代がより必要と考えています。

「⑦高齢者への理解と助け合いの心を育む教育」については、50歳代以下の関心が低いことが分かります。地域福祉はすべての世代が取り組むことが理想ですので、高齢者への理解をすすめる方法を考える必要があると言えます。

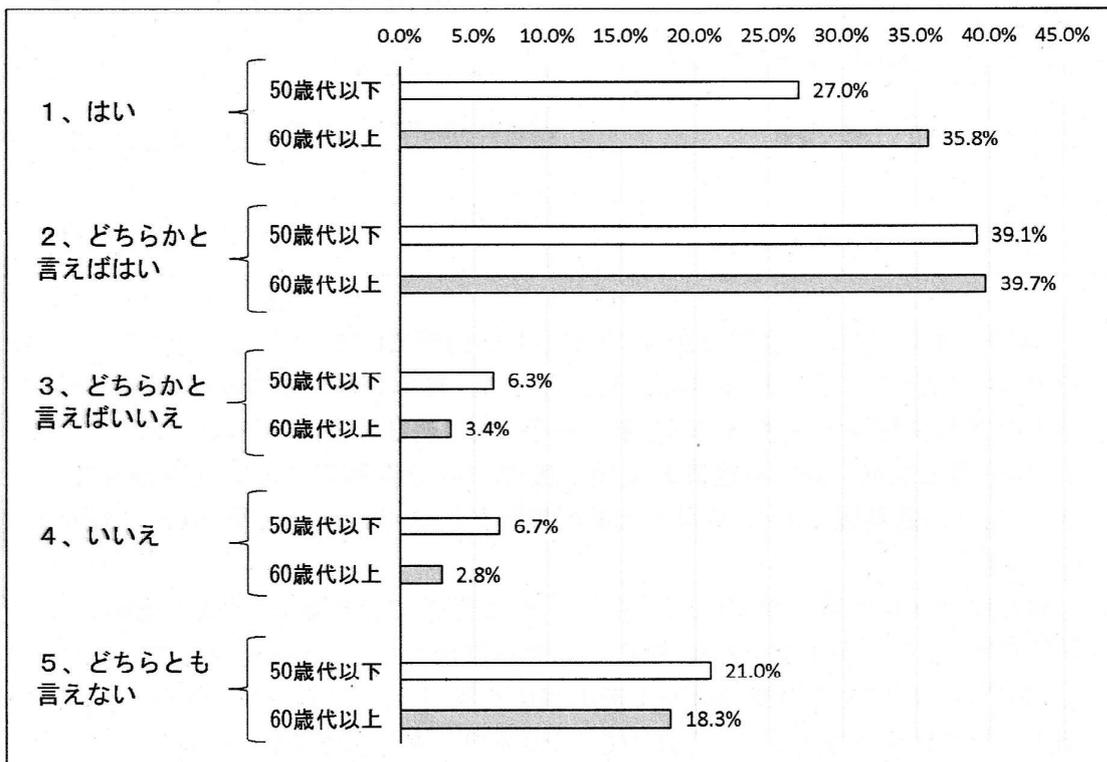
5、問⑤上灘地区に愛着や誇りを持っていますか？

【全世代・全町】



「①はい」と「②どちらかと言えばはい」を合わせると、全体の7割以上になります。多くの住民が、自分の住む上灘地区に愛着と誇りを持っていることが分かります。「③どちらかと言えばいいえ」と「④いいえ」を合わせると全体の1割弱です。

【全町 50歳代以下・60歳代以上別】



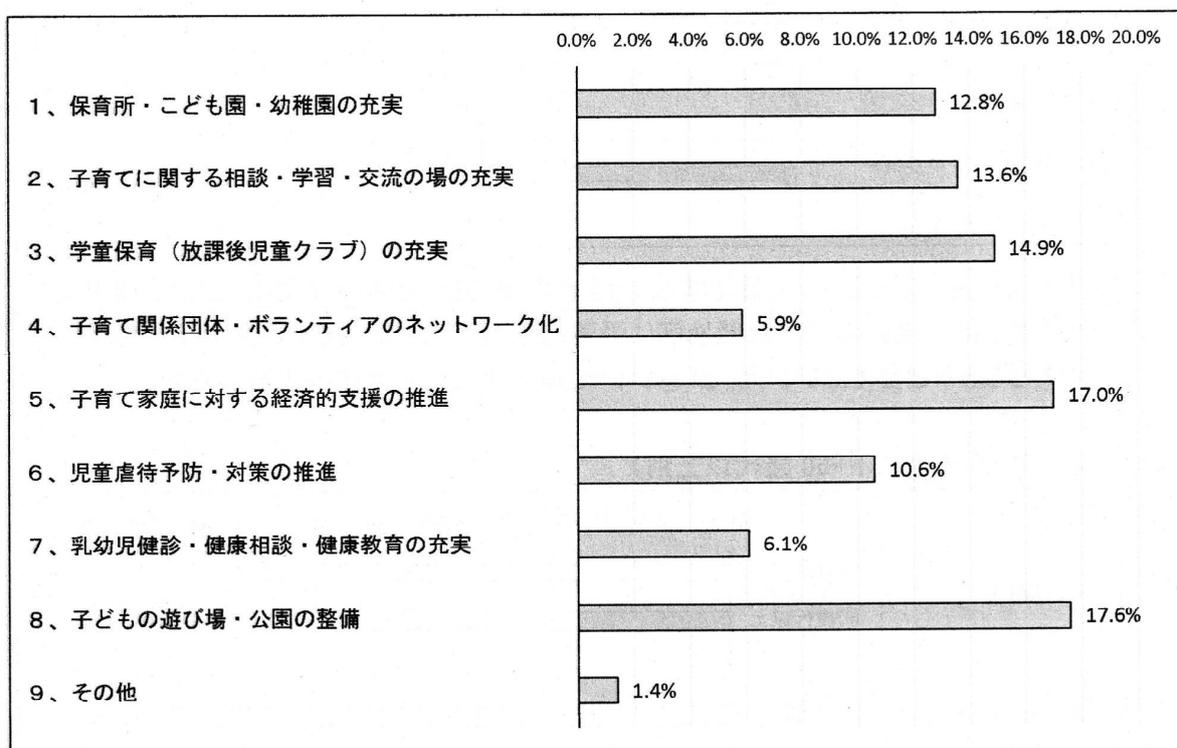
50歳代以下は「①はい」と「②どちらかと言えばはい」を合わせると約66%で、60歳代以上の「①はい」「②どちらかと言えばはい」の合計約76%より10%低いことが分かります。

反対に「③どちらかと言えばいいえ」と「④いいえ」の合計は、50歳代以下が13%で、60歳代以上の約6%の2倍以上になっています。

以上のことから、高齢世代の方が若い世代よりも、地域への愛着と誇りを持っていることが分かります。今後は、若い世代にどのようにして地域への愛着と誇りを持ってもらうかを考えていく必要があると思われます。

6、問⑥子育て支援のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？

【全世代・全町】



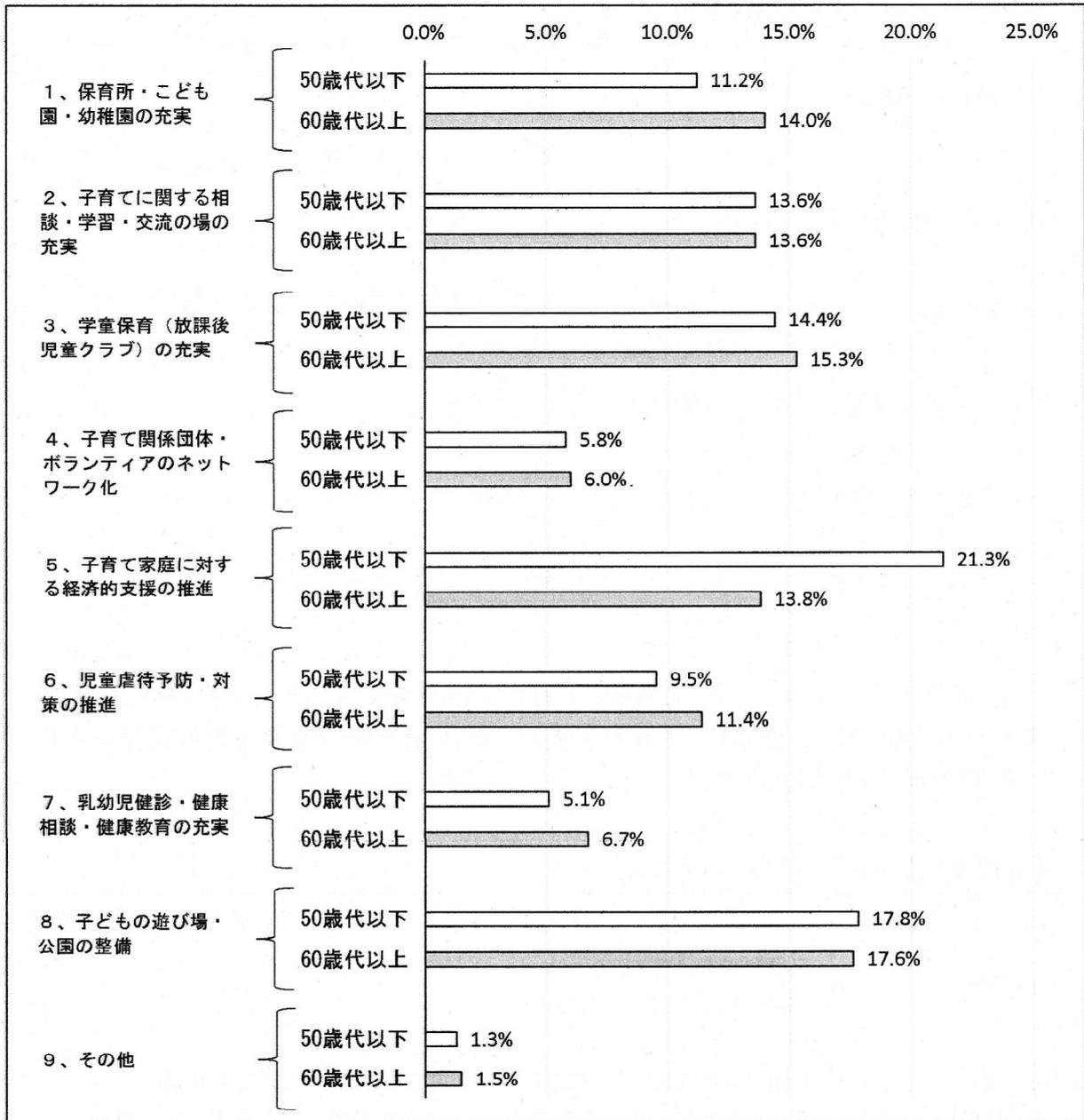
「⑧子どもの遊び場・公園の整備」が最も多い回答でした。地域に子どもの遊び場が少ないと思っている人が多いことが分かります。来年の春にはコミュニティセンター前の県立美術館がオープンします。新たな子どもの遊び場として期待されます。

「⑤子育て家庭に対する経済的支援の推進」も⑧と同程度に高い回答割合です。コロナ禍と物価高騰により、子育て世帯が家計を圧迫されたことが要因の一つと考えられます。

現在は共働き世帯が増えたこともあり、「①保育所・こども園・幼稚園の充実」と「③学童保育（放課後児童クラブ）の充実」を求める割合はともに10%を超えています。

「②子育てに関する相談・学習・交流の場の充実」については、コミュニティセンター横の子育て総合支援センター「おひさま」との連携が考えられます。

【全町 50 歳代以下・60 歳代以上別】



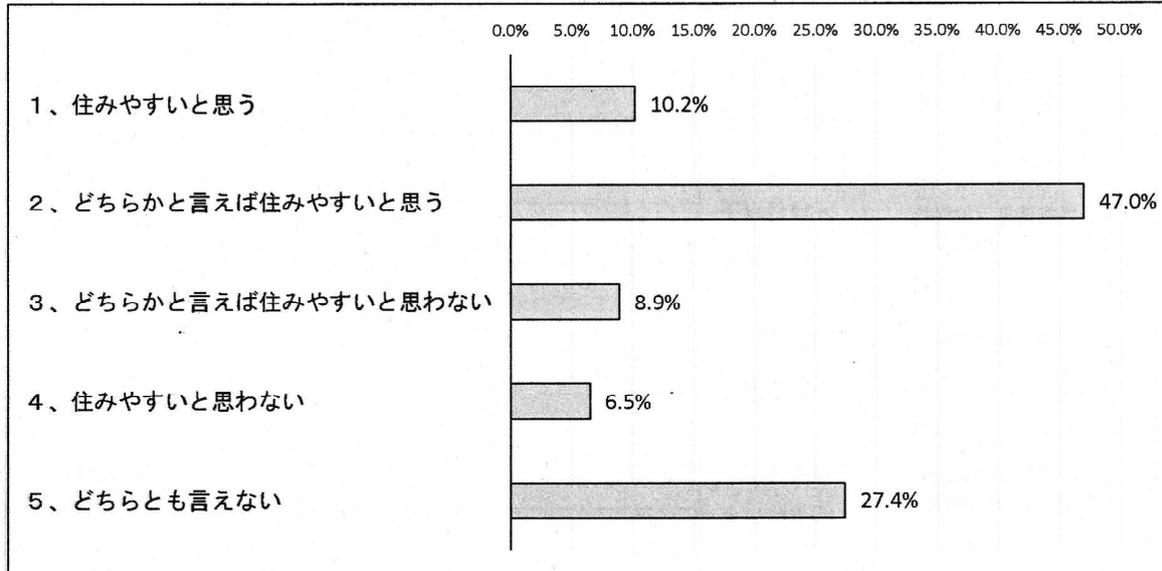
「⑤子育て家庭に対する経済的支援の推進」については、50 歳代以下では最も高い割合になっています。60 歳代以上の回答と比べると8%弱上回っています。

子育ての終わった 60 歳代以上は経済的な支援を必要と感じておらず、実際に子育てをしている若い世代の経済的負担感が大きいことを表していると思われます。

他の項目は、50 歳代以下と 60 歳代以上との顕著な違いは見られませんでした。

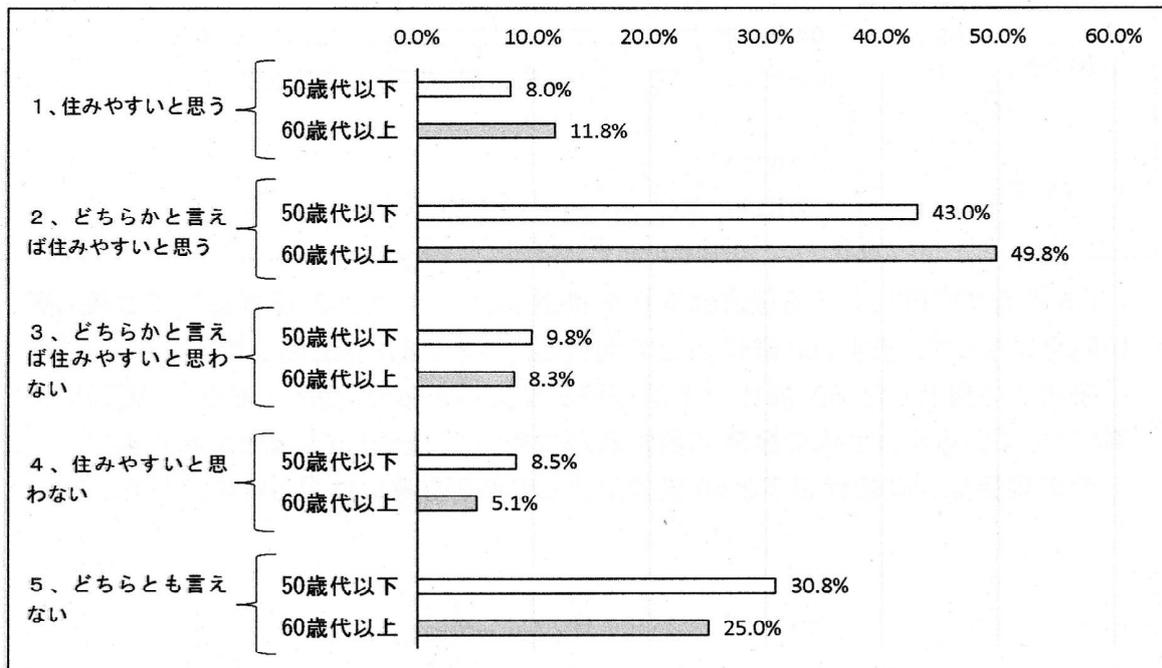
7、問⑦上灘地区は、福祉サービス、バリアフリー、住民意識などを総合的に考えて住みやすいまちであると思いますか？

【全世代・全町】



「①住みやすいと思う」と「②どちらかと言えば住みやすいと思う」を合わせると全体の約6割となります。地域の「住みやすさ」は、転入出世帯の数や自治公民館加入率に影響を与えると考えられます。

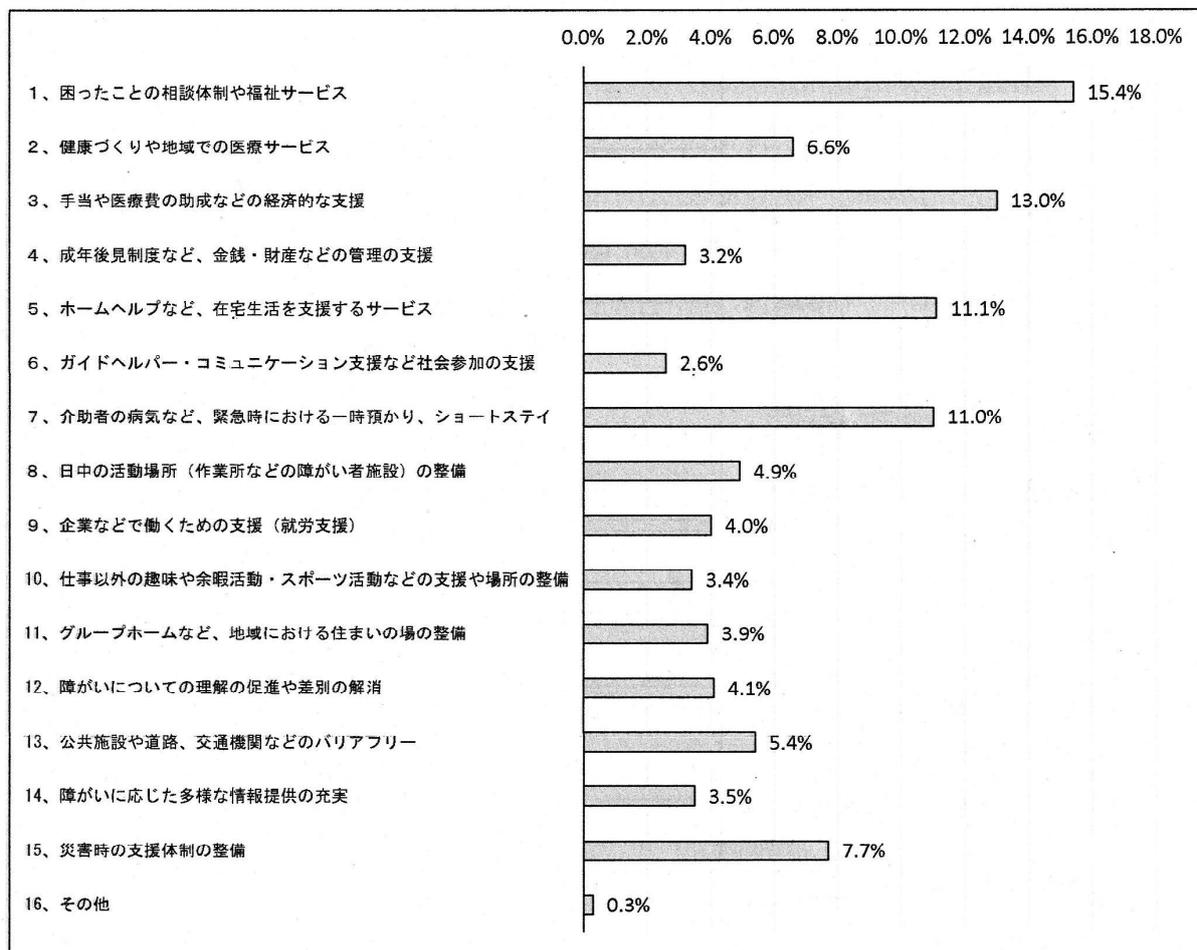
【全町 50歳代以下・60歳代以上別】



50歳代以下より60歳以上の方が、上灘地区は住みやすいと感じていることが分かります。反対に50歳代以下の人の約2割が、住みにくいと感じていることが分かります。

8、問⑧福祉サービスをより充実させていくために、特に重要と考える取り組みは何ですか？

【全世代・全町】

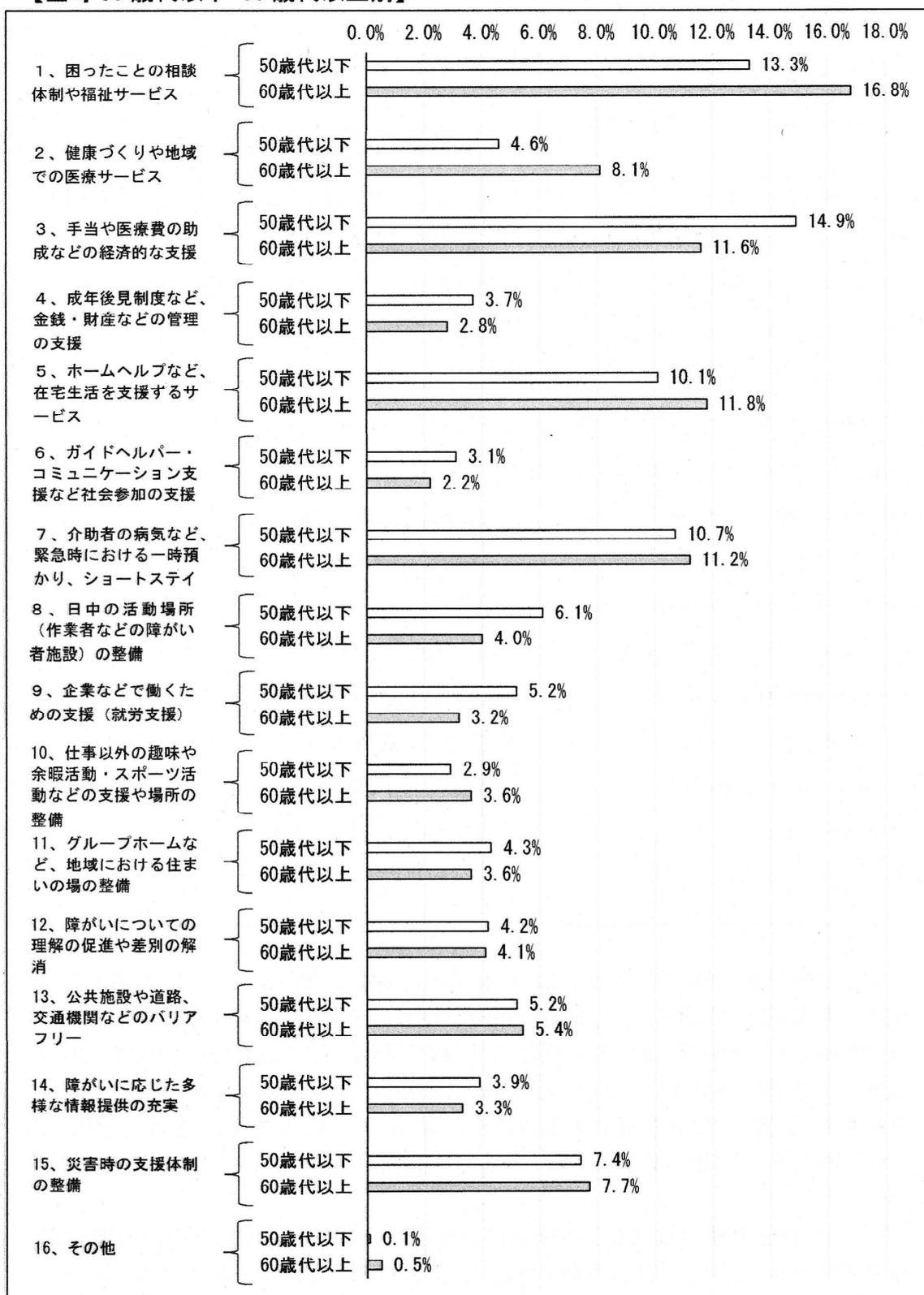


最も割合が高いのは「①困ったことの相談体制や福祉サービス」です。世帯人数の縮小と家族機能の低下により、身近な家族へ相談できない高齢者などが増えたこと、コロナ禍により近所づきあいなど地域のつながりが希薄化したことで、困りごとの相談先や相談体制を充実してほしいと考える人が多いことが分かります。現在、上灘地区社会福祉協議会は民生児童委員協議会と協力して、「地区相談会」を月1回開催していますが、この地区相談会をより充実させることも検討していく必要があると言えます。

「③手当や医療費の助成などの経済的な支援」、「⑤ホームヘルプなど、在宅生活を支援するサービス」、「⑦介助者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ」など、経済的な支援と介護保険サービスの更なる充実を望む声も多いです。

また、「⑮災害時の支援体制の整備」を希望する人も一定数います。中部地震から7年が経過し、災害に対する危機感が薄れている現状がありますので、「支え愛マップ」への取り組みを推進するなど、地域全体で防災意識の向上を目指すことも重要であると考えます。

【全町 50 歳代以下・60 歳代以上別】



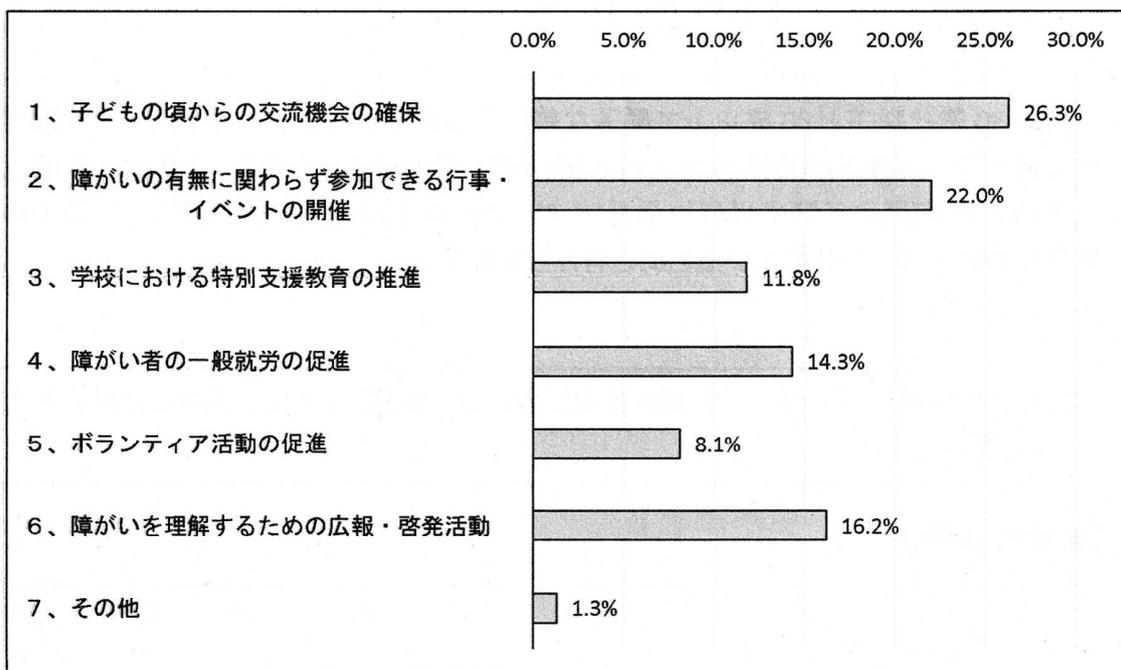
「①困ったことの相談体制や福祉サービス」については、60 歳代以上の人では一番割合が高くなっています。これは、一人暮らしの高齢者が増えたこと、地域でのつながりが希薄になったこと、家族の機能が低下したことなど、様々な要因が考えられますが、60 歳代以上の高齢者が困った時の相談先がないことを表していると言えます

す。また、「②健康づくりや地域での医療サービス」については、50歳代以下の人と比べると60歳代以上の人の方が倍近い割合となっており、加齢とともに健康・医療への関心が増加していることが分かります。

50歳代以下の人では、「③手当や医療費の助成などの経済的な支援」の割合が最も高く、「①困ったことの相談体制や福祉サービス」は2番目の割合となっています。このことから、若い世代は経済的な関心が高く、健康面への不安が少ないことが分かります。

- 9、問⑨今後、障がいのある人とない人が互いに理解を深め、交流を図り、誰もが支え合う地域をつくっていくことを目指す地域共生社会を実現するためにどのようなことが大切だと思いますか？

【全世代・全町】



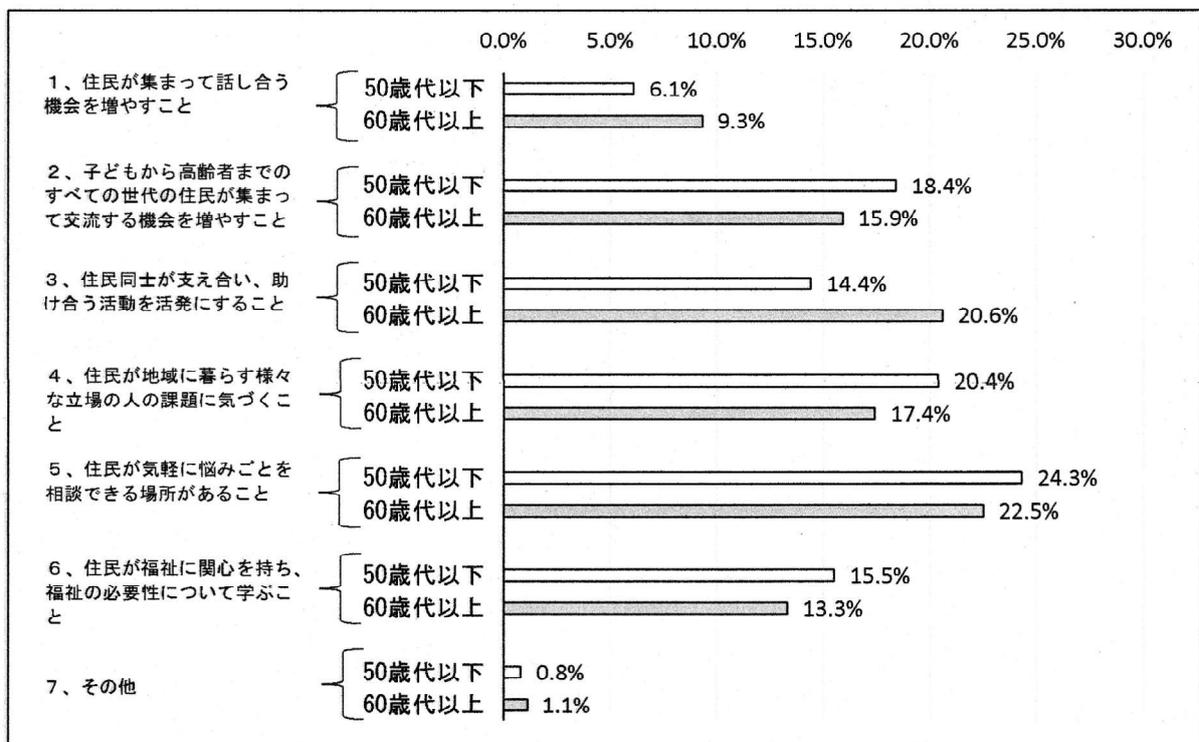
「①子どもの頃からの交流機会の確保」が最も高い割合です。学校では福祉教育などが推進されていますが、地域の中で世代を問わず障がいについて考える機会を設けることも必要かもしれません。

「⑤ボランティア活動の促進」は8%程度で低い割合です。ボランティア活動の促進は、ふれあい給食サービスなど地域のボランティア活動にもつながるため、大切な取り組みであると考えられます。地域にとって、この割合を上げていくことも重要と言えます。

「⑤住民が気軽に悩みごとを相談できる場所があること」が最も高い割合です。世帯人数の減少による家族機能の低下、地域のつながりの希薄化、高齢者のみの世帯の増加など様々な要因が重なり、地域の中で気軽に相談できる場が必要となっていることが分かります。

次に、「④住民が地域に暮らす様々な立場の人の課題に気づくこと」、「③住民同士が支え合い、助け合う活動を活発にすること」、「②子どもから高齢者までのすべての世代の住民が集まって交流する機会を増やすこと」の順に割合が高くなっています。一方で、「①住民が集まって話し合う機会を増やすこと」、「⑥住民が福祉に関心を持ち、福祉の必要性について学ぶこと」は低い割合となっています。このことから住民の人が、かしまった「話し合うこと」や「学ぶこと」よりも、具体的な地域での「活動」の方を重視していることが分かります。

【全町 50 歳代以下・60 歳代以上別】



50 歳代以下と 60 歳代以上ともに、「⑤住民が気軽に悩みごとを相談できる場所があること」が最も割合が高いです。

60 歳代以上の人は、「③住民同士が支え合い、助け合う活動を活発にすること」を重視していると言えます。反対に 50 歳代以下の人は、「③住民同士が支え合い、助け合う活動を活発にすること」よりも、「②子どもから高齢者までのすべての世代の住民が集まって交流する機会を増やすこと」を重要視していることが分かります。

また、50 歳代以下の人は、「①住民が集まって話し合う機会を増やすこと」をあまり必要と考えていないことも分かります。

## 各設問の「その他」についての回答

### 問④高齢者が安心して暮らすために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？

- ・ 駄経寺町民生・児童委員を今年度から任命されまして協力しています。同じ班の人は知っていますが、他の班は知らない人が多いので困っています。
- ・ 見かけた時のあいさつ、声掛け
- ・ コミュニティーセンターでのサロンに出席しましたが、ゲームには手が使えないので、参加できませんでした。お茶を飲んで、ただ、しゃべりただけなので、何かいい方法はないでしょうか？
- ・ 道路の歩道がでこぼこしていて、足元がおぼつかないので、散歩がしにくい。
- ・ 高齢者が運動しやすいような器具などを配備した公園を作ってほしい（香港の公園のように）
- ・ 買い物支援等車のない人の移動支援
- ・ 子育てで支援の方の幸福が一番にはかる
- ・ 子育て世代で今後小学校の子を持つ親として日頃の高齢者の運転に不安を感じる（道交法の違反、認知の低下、事故など）。運転免許証を返納した方のメリットが余りないし、支援も不足していると思う。例えばタクシーでないと受診に行けない方にとってはタクシー代が高すぎる。身障者手帳もっている人でもタクシー券36枚（年）は足りていない。健康管理、持病の治療など、その方の生活に必要な事なのに移動費が負担となっている声をたくさん聞きます。車のない方、免許がない、返納した方に送迎や買い物などもっと支援して、高齢者の免許返納を促せる取り組みをしてほしい。事故の犠牲者をつくらないために。
- ・ ウォーキングしている際、横断歩道で停止しない車が多い。
- ・ 信号のある交差点でも信号無視や歩行者優先無視の車が多い
- ・ 狭い歩道でベルを鳴らさずに追い越しする自転車が多い。
- ・ 高齢者の生活もでるを作る（2人の時、1人の時）困ったときの解決方法をまとめて周知する。／町内 Web 会議、サロン
- ・ 老人ホームに誰でも入れるようにしてほしい。（特に一人暮らしの人には）
- ・ 出番、役割（困る人→頼れる人）
- ・ 高齢者だという意識をなくし、自立を維持、目指す関わり
- ・ 高齢者自身が自分、高齢者の身体、動作能力を認識し、身体機能、動作能力を維持する機会を作る。
- ・ 認知症者が増えて、超高齢化社会の昨今、住民どうしのネットワーク

### 問⑥子育て支援のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか？

- ・ 子どもを育てるのには何が一番必要なのか？お金？愛情？根本から考える必要があるのでは？考えるだけでなく、永遠の課題かもしれませんね。
- ・ 少子化問題

- ・子どもたちとのコミュニケーションをもっと取りたいですね。
- ・給食費、医療費の無料化
- ・地域活動（町内会）や PTA、子供会の負担軽減、共働きが多い内、これらの役員を重複して担う事があり、負担。町内会、PTA、子供会を行政かが主導で行うことや、行政の予算において外部委託を行うなどをしてほしい。倉吉市もこれからの活動を地域に丸投げするのではなく、もっと責任をもって主体的にしてほしい。
- ・やはり、子育て中の親や町内の子どもたちへの声かけ。
- ・子が病気や父母とも仕事を休めない土・日等、急な時でも簡単な手続きで預かってもらえるシステム
- ・鳥取県の賃金は安すぎ、経済的安定がなければ子育てできない。産業育成が必要。
- ・スマホを見ながらの運転が多い。
- ・交通マナーに関しては倉吉はドイナカである。
- ・子どもとすれ違った時、「こんにちは」と声をかける。
- ・住民間交流、急な休校時に対応できる学童保育。
- ・虐待が増えている昨今、教える機会のためにも。

**問⑧福祉サービスをより充実させていくために、特に重要と考える取り組みは何ですか？**

- ・元気な間はいいですが、一人暮らしで困った時に連絡をしてほしい親族等の名前や電話番号を書き、玄関とかに置いたりして、隣家に渡したりしておこうと私は思っています。できるだけ庭から見える場所で倒れたいな。
- ・身体障害者となった時の身体障害者申請の支援。
- ・道路の小さい段差の解消。
- ・活動を与える機会必要なこと。シルバーサービスとは違うが、何かの機会で。
- ・何かを増やすことより、今できること、ある事が何か。市役所に行かなくても誰でも分かるように情報をオープンにすること。どこに何があって、何時にオープンして、どんな事が受けられるか、市の人に口頭で聞くしか正確な情報を得られないので、情報取得の時点で疲弊してしまう。

**問⑨今後、障がいのある人とない人が互いに理解を深め、交流を図り、誰もが支え合う地域をつくっていくことを目指す地域共生社会を実現するためにどのようなことが大切だと思いますか？**

- ・合唱クラブや絵画クラブを作り、行政は発表の場を設けて障がいの有無の区別なく参加、交流をはかる。
- ・コミュニケーションを与えるきっかけになれば

## 問⑩地域の福祉をより充実させるためには、住民にとってどんなことが必要だと思いますか？

- ・福祉をなぜ充実させる必要があるのか？これが最初。
- ・地域の福祉とは何か、その現状と問題点をまとめる事。
- ・小中高等学校の学校行事に保護者だけではなく、地域全体が参加する行事にする。
- ・小さな町（〇町）は住民が集まるきっかけがないので、考え方を変えていくこと。
- ・まず、お互いを思いやる気持ちがないと、どんな福祉サービスが増えても意味がないと思う。集まって話す。交流する、活動する以前の問題。住民というより国民全体の課題で難しい。

## 代表的項目についての回答

### ○高齢者について

- ・家族と一緒に高齢者の人は良いけど、一人の高齢者は買い物とか、移動手段が大変なのでなにかいい方法があればと思います。今は、まだ歩けるけど
- ・町全体の高齢化が進んでいて、助け合うどころか助けが必要な家庭ばかりになりつつあります。公民館で行事をしていても、子育て世代は仕事や子供の行事や習い事で忙しく、年配の方は体の不調などで出てくる事が難しい場合もあります。昔のようにご近所で助け合っような地域のあり方はなかなかできないのではないかと思います。買い物支援やグループホームなどの日中他人とかかわれる場所の提供が1番高齢者の困りごとを見つけやすくなるのではないとか、障がいにかんしてはやはり偏見をなくしたり、知識を深めたりするための交流の場所が必要かなと思います。（市の福祉課、長寿社会課、地域包括支援センターなどの一層の充実、人員の増加が望まれます。）
- ・高齢者が認知症になっても地区の人と今まで通り暮らしていける様になると良いと思います。
- ・自動車運転免許証返納後の買い物通院とても不安です。
- ・今年は雪が多かったのですが、独居老人が外に出る道の確保の検討をしてほしい。
- ・高齢者の体力維持のため、公民館に何時でも使用できるトレーニング道具を置いてほしい。
- ・高齢者じゃなくても、一人暮らしの私の一番困っていること、重い物・大きい物を捨てたくても、持ち出したりする事ができません。片づけたくても1個や2個くらいのももの整理では、業者も来てくれない。のでは？
- ・現在は70歳代であるが、就業し、一応生活には不自由していない。しかし、高齢になる一人になる、仕事をしなくなり、年金生活をしなければ、生活を維持していく事、災害時の協助等について心配になる。現在は余りにも個人情報保護とって、その人の生活振り環境等の情報が分かりづらく、支援も不十分になる。生活にも不安がある等、相談しやすい環境を作ることが大事と考える。
- ・老後に車に乗れなくなった時の買い物、その他が1番の心配です。

- ・免許返納時の公共手段、近くに子ども等が居ないので、どうなるか不安。
- ・高齢者世帯の除雪作業が大変だなと思います。自宅前の除雪で精一杯で…。何かよい方法があれば…と思います。
- ・高齢者対策！知識の還元。グランドゴルフばかりしないで。！子、孫世代に伝承を。経験と知識。尊敬される老人であってほしい。子育てにもサポートを！！
- ・数年先には運転免許証を返納することになると思うが、ゴミの搬入さえも大変になるとされる。他にも諸諸、便利の悪い事が多々増えて来るのではと考えています

## ○障がい者について

- ・冬場の積雪時の除雪作業は私が車椅子での生活の為、家族が30分かけてとなり町から来て行っています。住宅団地内の駐車場は各戸の対応となっていますが、せめて住宅に入るスロープに屋根が設置されていれば、雪だけではなく、雨にも濡れる事がなくて有難いのですが？
- ・自分（本人）自身、70歳以上高齢者になり、障がい者の面倒を見ていくのが心配です。現在も体力がついていけなく、つらいです。デイサービス、ショートを利用しています。有難く、助かっています。〇〇出血で倒れ、〇年目。高次機能障害があり、外見ではわかりにくいけど、1日の世話が大変です。
- ・車椅子の方との外出の際に「入れるかな？」「段差が有るかな？」…下見に行ったりと…。まだまだどこにでも気兼ね無くって環境にはほど遠い様に思います。

## ○自治公民館等について

- ・夜の会合はなるべく減らして頂きたい。＊夜の会合に出席する途中に交通事故（自損事故）を起こした事がある。
- ・当町内では公民館役員を順番性により選出している。役員世帯の代表一人が受けるのではなく、世帯で受けるようにしているが、高齢者だけの世帯もあり、高齢者には大きな負担になっている。80歳以上の世帯は免除してもらいたい。＊定年後10年間は地域の活動に協力（地域貢献）していただけるようお願いしてはどうかと思う。
- ・少子高齢化に伴い、民生児童委員の負担が多くなってきている。また、地域内ではアパートも増えてきており、災害時における対応が難しくなっている。＊公民館への未加入者が多く、加入促進をお願いしたい。＊任期は3年だが、3期9年は継続して欲しい方針がある。そこで、退任された方にサポートをお願いする体制を確立してはどうかと思う。
- ・特定の人たちには感謝致します。（世話、活動、ボランティアをして戴いている人）。でも一人が二人、二人が三人と活動の輪が広がり、今も住みよい上灘ですが、老人子どもが上灘はよい町だと思えるような町になることを期待します。
- ・公民館活動の廃止
- ・役員引継ぎができるようにして欲しい。回覧板のリストやファイル、前年までの活動の事など、この地区に引っ越して来たばかりで何も分からないという事もあると思います。引継ぎをする事で顔を見て話しもできるし、活動も理解できます。何も無い

まま役だけふられると、さらに若い世代の不参加が加速すると思います。

- ・自分たちの班の中に知らない人がおられますよ。せめて、班の中に誰がおられるかを知りたいですね。
- ・高齢化や身体の不調等で、町の役員（部員）を決めるのがとても大変になってきている。部の数を減らし、部の活動を減らしてほしい。
- ・参加の呼びかけが必要であるが、参加する人はいつも参加しているが、むしろ参加しない人を如何に参加してもらうかが重要だと思う。
- ・元館長をされた方が、地区の運動会に呼んだ人が成績が悪いとボロクソに言う。それで、住民が集まらないようになっていったのに、自分が悪いと思っていない。町を合併する等、役員が本当に必要なことなのか無関心と呼び寄せている昨今、楽しい場を設ける必要有。
- ・独居老人の個人情報が必要な町の役員に余り流れてこない。

## ○防災について

- ・避難訓練をしたことがないので、近くに支援を必要としている人がどの程度いるか、どうして手助けをするのか、具体的な事がわからない。

## ○町内での生活について

- ・近くのスーパーなどに買い物などに行くのに、重くて持って帰られない人の手伝いを付き添って下さる人が、いたらいいですね。出来るだけ散歩かねて、ボランティア的な。
- ・ひとりでくらしているから、困りごとが時々あります。
- ・まずは、家族内でのサポートが重要であり、基本だと考えます。人口が減り、かつ過疎化による相互コミュニケーション（年齢層に関係なく）が不足している事への課題を一つずつ解決できる行政と人材が充実して行く事を希望します。
- ・医療、介護、福祉は大切な事であるため、民生委員、福祉協力員等は医療、介護、福祉に携わっている方が、知識があり良いと思います。

## ○住環境について

- ・東巖城付近ではゴミ捨て場まで遠く、大雪時や車がないと捨てに行くのが大変になる
- ・道が狭い、街灯が欲しい。
- ・高齢者や子供、障がいのある人が住みやすいように、まずは道路や公園などの整備をして頂きたいです。また、夜間でも安全に移動ができるよう、街灯を増やして頂きたいです（線路後の歩道など）。市民が楽しく健康維持できるように大きな運動公園やイベントができる広場、人が集まる場所ができると活気が出てにぎやかにもなるではないでしょうか。打吹山のハイキングコースをもう少し整備して頂き、市民や県外の方が登りやすい山にしてほしいです。山頂の景観をしが見渡せるような整備をして頂きたいです。市民の移動が車中心となっているため、健康寿命を伸ばすためにも、ウォーキングしやすい道路整備や運動しやすい公園、異文化交流できるイベントなどで、

明るく楽しい倉吉市を作って頂きたいし、お手伝いしたいです。よろしくお願ひします。

- ・大雪の時、除雪作業に困ります。
- ・運転不能（公共バス等）になった時の生活確保。〇〇にはバスが来ない。
- ・部落内にカーブミラー、街灯をもっと多く設置してほしいです。ちょっと危ないと思います。
- ・楽しく美しい安全な散歩コースが多くある。買い物、病院、銀行他何一つ困らず、老後安心して暮らせる上、美術館、未来中心等心から楽しめる上灘地区。
- ・横断歩道が無くて危ないという場所があるので、点検してほしい。
- ・通学路の除雪を自治公のご担当者さんがお世話してくださり、いつも感謝しています。
- ・冬に大雪が降った場合、昨年大雪で出入りに困りました。多く降った場合開けて頂きたいと思います。
- ・県立美術館ではなく、高齢者・子供がグランドゴルフなどのスポーツ等様々な活動が行える場（公的）を作ってほしかった。

## ○アンケートについて

- ・複数回答が必要な設問が多く、一つに絞るのが難しい。
- ・アンケート主体・目的・個人情報の扱い等が分かるような依頼文が必要。
- ・アンケート結果を誰が分析して、住民にどのように報告するかという説明も必要。
- ・分かりにくい回答用紙だったと思う。もう少し簡単に分かりやすい方法があったのではないかと思います。判断に困る事が多々あった。
- ・このアンケート用紙は、書き方が解りづらい！！年寄には難しいと思う。回答票に書き込まず、間の所の番号にチェックする方が簡単でわかりやすい。

## ○その他

- ・近年、外来語が氾濫して、年寄には理解できない用語が多くなっている。各種文書には注釈を付けてもらいたい。
- ・平素から地区の氏子会の皆様にはお世話になります。〇班（〇〇神社）に〇〇軒の氏子様に支えられて3期目の総代をしていますが、来年は、地区の役員、総代の改選回です。やりたいといわれる方があれば交代しますが、なければ〇〇神社存続の為にやるべきでしょうか。氏子さんも増えれば良いのですが…。
- ・思いがあってもなかなか言い出せない方もあると思います。日頃の人付き合い、関わりが必要だと思います。近所付き合いは大切だと思います。
- ・ご近所の方にお会いしたら、出来るだけお声をかけたり、挨拶をしたいと思います。
- ・健康づくり維持のために主人は朝夕ウォーキングをしているのですが、私もしたいと思っています。
- ・来年の春、近くに娘夫婦が引っ越して来るのですが、孫がお友達と仲良く遊べる様にと願っております。そのためにも、遊び場・公園の整備などの取り組みをよろしくお

願います。

- ・自分から進んで運動バランスの良い食事、思いやりの人間関係作りをするために皆で声かけをして元気になる機械作りが大切だと思います。
- ・上灘公民館で「心もからだもスッキリ健康塾」があり、定期的に健康生活体力測定をして保健師さんからの指導、湯川先生他の先生の指導で元気体操を力いっぱいして、おかげで病気一つしないで元気に暮らすことができます。心から感謝しています。又あのような場所は出来ないでしょうか。
- ・少子化対策！経済対策が絶対必要。生みやすい育てやすい社会を創造。
- ・過疎化している現状で村自体で同じ役員を続けているが、先をみると後に続く者がなく、充実するかどころか、増々少子高齢化の影響で地域で支え合う事が難しくなっている。物（建物）が立っても、地域の村おこしがないければ何も発展しない。経済的にも厳しい中、生きていくのがやっとという人がほとんど。地域に目を向ける人はいない。国がもっと支援しないと地域の破滅はまぬがれない。

上灘地区内の社会福祉に関連した施設・機関

【高齢者対象の関係施設及び事業所】

○通所リハビリテーション（デイケア）

介護老人保健施設や医療機関などで入浴などの日常生活上の支援や生活行為向上のためのリハビリテーションを日帰りで行います。

事業所名	住 所	電話番号
通所リハビリテーションしみず	幸町 512-1	23-2526
デイケアひまわり	東昭和町 165	47-0002

○通所介護（デイサービス）

通所介護施設で、食事、入浴などの日常生活上の支援や生活行為向上の支援を日帰りで行います。

事業所名	住 所	電話番号
デイサービスひびの	円谷町 508-3	27-0371
デイサービスそらいろ	幸町 532-1	27-0820
デイサービスひまわり	東昭和町 165	47-0002
デイサービスひまわり昭和町	東昭和町 140	48-0008
デイサービスセンターあずま園	東巖城町 472	22-6801

○訪問介護

利用者が自立した生活が送れるよう、ホームヘルパーによる入浴や食事などの生活の支援が受けられます。

事業所名	住 所	電話番号
ヘルパーステーション蔵まち	東巖城町 219	24-0371
ニチケアセンター倉吉	東巖城町 120-1	47-6347

○訪問看護

看護師などが訪問して、介護予防を目的とした療養上のお世話や診療の補助をします。

事業所名	住 所	電話番号
訪問看護ステーションひまわり	東昭和町 158	47-0012

○訪問リハビリテーション

理学療法士や作業療法士、言語聴覚士に訪問してもらい、リハビリテーションをします。

事業所名	住 所	電話番号
訪問リハビリテーションしみず	幸町 512-1	24-5358

○認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

認知症高齢者が共同生活する住宅で、食事、入浴などの介護や支援、機能訓練を受けられます。

事業所名	住 所	電話番号
倉吉グループホームあずま園	東巖城町 472	24-6801
グループホームひまわり昭和町	東昭和町 143	48-0055
グループホームひまわり昭和町Ⅱ	東昭和町 134	47-0011

○短期入所生活介護（ショートステイ）

事業所名	住 所	電話番号
短期入所施設ひまわりの家	東昭和町 131-1	24-6343

○サービス付き高齢者向け住宅

事業所名	住 所	電話番号
けあホームひまわり昭和町	東昭和町 140	48-0008
サービス付き高齢者向け住宅 ひまわりの家	東昭和町 131-1	47-0005

○居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）

事業所名	住 所	電話番号
居宅介護支援事業所 キラリ	見日町 491	23-1505
デイケアひまわり居宅介護支援事業所	東昭和町 165	47-0002

○福祉用具レンタル・販売、介護リフォーム

事業所名	住 所	電話番号
株式会社あさひほーむ	昭和町 2 丁目 236	23-7272

○地域包括支援センター

介護予防や地域の総合的な相談の拠点として設置されています。

（介護予防ケアマネジメント、総合的な相談や支援、権利擁護・虐待の早期発見と防止、ケアマネジャーへの支援）

センター名	住 所	電話番号
倉吉中央地域包括支援センター （上灘地区・成徳地区担当）	宮川町 129	22-6102

【障がい者対象の関係機関及び事業所】

○就労継続支援 A 型

事業所名	住 所	電話番号
合同会社ふれあい	東巖城町 213-1	24-5744

○相談機関

機関名	住 所	電話番号
中部身体障害者更生相談所	東巖城町 2	23-3124
中部知的障害者更生相談所		

【子育て支援の関係機関及び施設】

○子育て支援センター

施設名	住 所	電話番号
倉吉市子育て総合支援センターおひさま	上灘町 9-1	22-3914

○児童館・児童センター

施設名	住 所	電話番号
上灘児童センター	上灘町 41-1	22-4545

○放課後児童クラブ

施設名	住 所	電話番号
ぶるーむ学級 1 組	上灘町 41-1	22-4545
ぶるーむ学級 2 組	上灘町 136 (上灘小学校)	27-0250

○保育所

施設名	住 所	電話番号
うつぶき保育園	東昭和町 177-1	22-2933
どんぐりこども園	上灘町 41-1	22-0252

【医療機関】

○病院・医院

病院名・医院名	住 所	電話番号
鳥取県立厚生病院	東昭和町 150	22-8181
あけしまレディースクリニック	幸町 507-18	22-6311
石津クリニック	昭和町 1 丁目 210	23-4133
上野医院	東昭和町 38	47-6555

岡本小児科医院	昭和町 1 丁目 61	22-1051
鳥飼内科	昭和町 1 丁目 62	23-2822
みらい内科クリニック	昭和町 2 丁目 233	27-1144
まつい眼科クリニック	昭和町 2 丁目 151	22-1333
レディースクリニックひまわり小笹産婦人科	南昭和町 27-1	47-6060
井東医院	上灘町 172	22-5133
すおうメンタルクリニック	下田中町 907	47-6006
ぬの皮膚科医院	東巖城町 54	23-1771
おはだのこことクリニック	昭和町 2 丁目 155-1	24-5237

○歯科医院

病院名・医院名	住 所	電話番号
あけしま歯科	幸町 507-20	22-0555
木本歯科医院	昭和町 1 丁目 174	22-1217
谷口歯科医院	昭和町 1 丁目 21	22-1141
山中歯科医院	東巖城 170	22-7256
よしい歯科医院	東巖城町 101	23-1411
さくら坂歯科クリニック	東巖城町 120-1	24-6004
たけ歯科医院	駄経寺 2 丁目 40-2	24-5804